

平成28年度

保健活動のまとめ

大口町保健センター

大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくります。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくります。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくります。

目 次

1 大口町の概要

1	町の位置及び紹介	1
2	大口町医療機関等分布図	2
3	人口	2
4	人口動態統計年次推移	5
5	選択死因別死亡数・(人口10万対)年次推移	5
6	大口町機構図	7
7	保健センターの概要	8
8	保健活動の変遷	10

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み・母子保健管理体系	16
2	一般不妊治療費助成事業	17
3	母子健康手帳の交付	17
4	妊産婦乳児健康診査	18
5	家庭訪問	18
6	母親教室	19
7	すくすく子育てサロン	19
8	フレッシュママの会	19
9	子育て相談室	20
10	乳幼児健康診査	21
11	離乳食教室	23
12	たんぼぼ教室	24
13	子育て支援・他機関との連携	25

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み・成人保健管理体系	27
2	健康手帳の交付	28
3	特定健診・特定保健指導	29
4	各種がん検診	34
5	わかば健康診査	40
6	肝炎ウイルス検診	41
7	ヘリコバクター・ピロリ抗体及びペプシノゲン検査	42
8	骨密度測定	43
9	健康教育	44
10	健康相談	47
11	家庭訪問	48

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み・歯科保健管理体系……	49
2	幼児期歯科健康診査……	50
3	妊婦歯科健康診査……	52
4	歯周病予防健康診査……	53
5	歯周病相談……	54
6	8020・9018運動 歯の健康コンクール……	55
7	歯の健康づくり得点……	55
8	歯と口の健康週間（歯の健康センター）……	56

5 健康推進事業

1	健康推進員活動……	57
2	健康おおぐち21計画推進……	62
3	国保・介護・健康・福祉の連携……	70

6 感染症予防事業

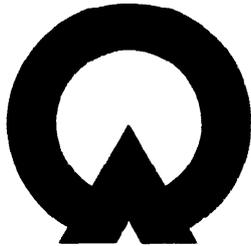
1	予防接種……	71
2	新型インフルエンザ等	75

7 その他

1	学生実習指導……	77
2	在宅医療介護連携……	78

1 大口町の概要

1 町の位置及び紹介



大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.61平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 行政区別世帯数 (単位: 世帯)

地区	区分	世帯
秋田		814
豊田		688
大屋敷		582
外坪		259
河北		593
余野		2,058
上小口		756
中小口		837
下小口		1,677
垣田		377
さつきヶ丘		336
合計		8,977

(2) 行政区別人口

(単位: 人)

地区	区分	人口		
		男	女	総数
秋田		1,161	1,144	2,305
豊田		977	955	1,932
大屋敷		774	784	1,558
外坪		385	389	774
河北		866	912	1,778
余野		2,783	2,639	5,422
上小口		1,055	929	1,984
中小口		1,119	1,130	2,249
下小口		2,119	1,877	3,996
垣田		331	483	814
さつきヶ丘		411	422	833
合計		11,981	11,664	23,645

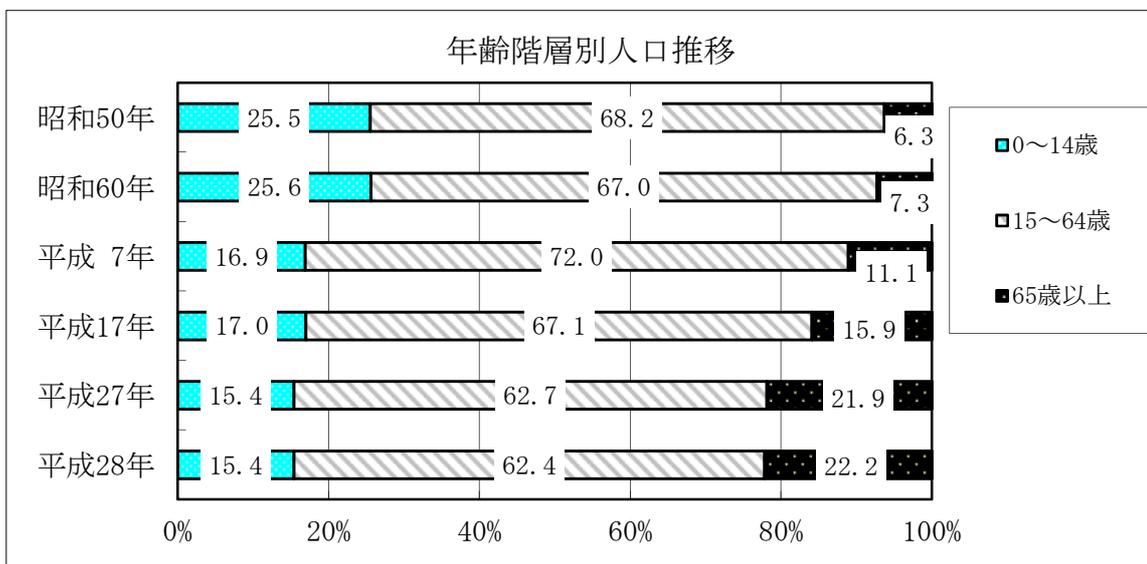
平成28年9月30日現在 指定区別年齢別男女別人口調 (提供: 戸籍保険課) による

(3) 年齢階層別人口の推移

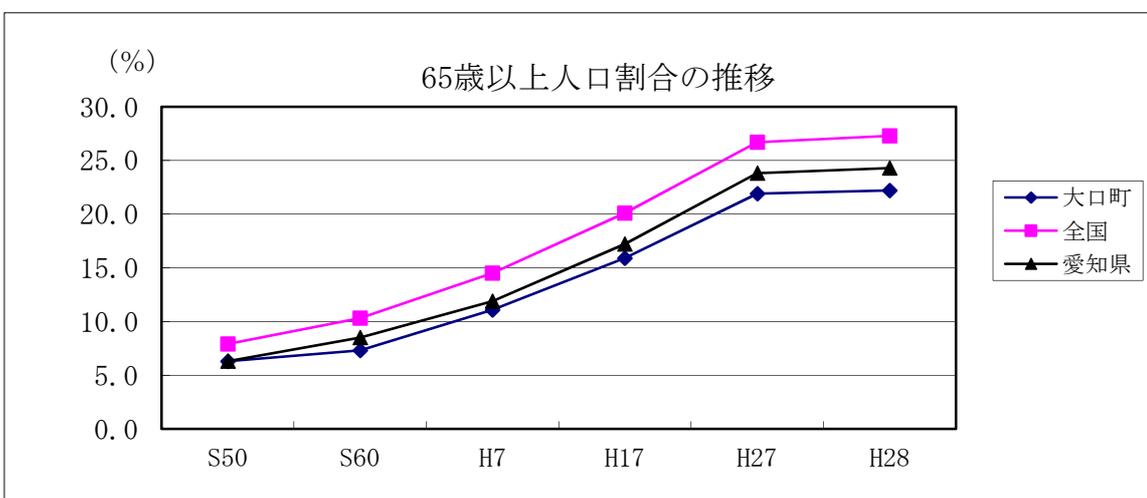
(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成27年	平成28年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,261	23,348	23,645
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,616	3,594	3,641
	比率	25.5	25.6	16.9	17.0	15.4	15.4
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,257	14,645	14,764
	比率	68.2	67.0	72.0	67.1	62.7	62.4
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,388	5,109	5,240
	比率	6.3	7.3	11.1	15.9	21.9	22.2
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	10,189	12,479	12,727
	比率	28.1	32.2	45.4	47.9	53.4	53.8
75歳以上	308	421	873	1,364	2,178	2,346	
比率	1.9	2.6	4.6	6.4	9.3	9.9	
全国	65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	20.1	26.7	27.3
愛知県	65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	17.2	23.8	24.3

資料：全国・愛知県は、総務省統計局発表のもの。各年、10月1日の人口に基づく。



※端数処理により100%にならない年があります。



(4) 地区別高齢化率

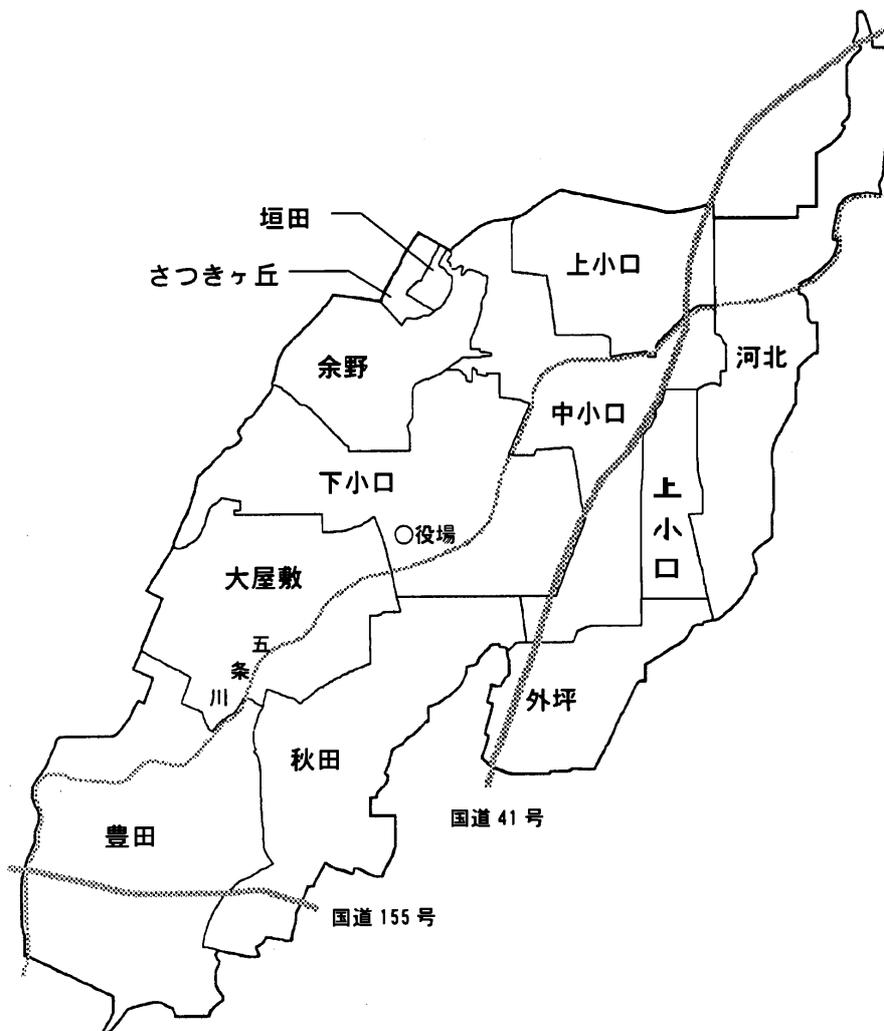
(単位：人)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,305	1,932	1,558	774	1,778	5,422
65歳以上人口	544	521	461	247	375	788
比 率 (%)	23.6	27.0	29.6	31.9	21.1	14.5

地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,984	2,249	3,996	814	833	23,645
65歳以上人口	427	480	891	221	285	5,240
比 率 (%)	21.5	21.3	22.3	27.1	34.2	22.2

平成28年9月30日現在 指定区別年齢別男女別人口調 (提供：戸籍保険課) による

〈行政区域図〉



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000対)

年	種別	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
			総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成	2	17,464	156	82	74	8.9	85	52	33	4.8	82	4.7	-	-	-	-	(データなし)	3	3.0	7	42.9	124	7.1	17	0.97	
	7	19,027	213	106	107	11.2	119	70	49	6.3	94	4.9	1	1	-	4.7	(データなし)	2	9.4	5	22.9	132	6.9	33	1.73	
	17	21,602	229	123	106	10.7	157	83	74	7.4	72	3.3	1	1	-	4.4	-	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1	
	22	22,199	234	123	111	10.5	170	99	71	7.7	73	3.3	-	-	-	-	-	-	-	4	17.1	125	5.6	41	1.8	
	24	22,429	214	106	108	9.5	174	91	83	7.7	40	1.8	-	-	-	-	-	-	-	3	13.8	126	5.6	24	1.06	
	25	22,679	199	100	99	8.8	171	98	73	7.5	28	1.2	-	-	-	-	-	-	-	5	24.5	118	5.2	29	1.3	
	26	22,922	241	128	113	10.5	174	95	79	7.6	67	2.9	2	1	1	8.3	-	-	2	8.2	5	20.3	119	5.2	33	1.4
	27	23,274	229	111	118	9.8	184	96	88	7.9	45	1.9	-	-	-	-	-	-	2	8.7	6	25.5	128	5.5	36	1.5
愛知県	H27	7,315,314	65,615	33,609	32,006	9.0	64,060	33,897	30,163	8.8	1,555	0.2	140	78	62	2.1	62	0.9	253	3.8	1,283	19.2	41,054	5.6	13,102	1.79
全国	H27	125,319,299	1,005,677	515,452	490,225	8.0	1,290,444	666,707	623,737	10.3	△ 284,767	△ 2.3	1,916	1,042	874	1.9	902	0.9	3,728	3.7	10,862	22.0	635,156	5.1	226,215	1.81

※人口は、大口町が愛知県県民生活部統計課発表の総人口、愛知県及び全国が総務省統計課推計の日本人人口で各年10月1日現在である。

※愛知県・全国：愛知県衛生年報および厚生労働省人口動態より。赤字は平成27年愛知県衛生年報より

<率算出式>

$$\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生} + \text{死亡} + \text{自然増加} + \text{婚姻} + \text{離婚数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡} + \text{新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数} + \text{早期新生児死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

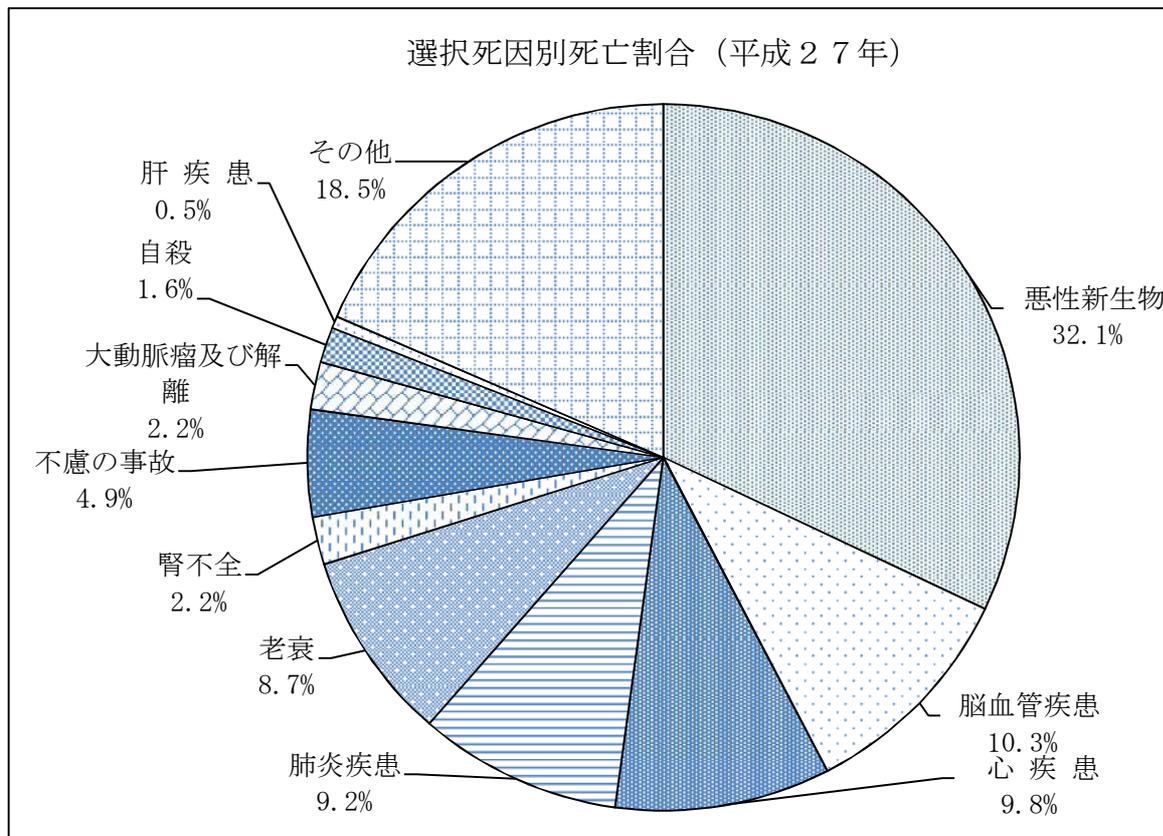
5 選択死因別死亡数・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

年	死因	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成	2	85	-	25	143.2	-	-	2	11.5	14	80.2	10	57.3	-	-	7	40.1	-	-	-	-	1	5.7	3	17.8	4	22.9	6	43.4	4	22.9	9	51.5		
	7	119	1	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3		
	17	157	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	-	19	89.4	3	14.1	-	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8		
	22	170	-	54	243.3	1	4.7	-	-	27	127.4	11	51.9	1	4.7	22	103.8	3	13.5	-	-	1	4.5	5	22.5	10	45.0	7	31.5	4	18.0	24	108.1		
	24	174	-	41	181.1	1	4.4	-	-	25	110.4	16	70.7	1	4.4	23	101.6	1	4.4	-	-	3	13.3	2	8.8	20	88.4	4	17.7	6	26.5	31	136.9		
	25	171	1	49	216.1	-	-	-	-	18	79.4	16	70.5	3	13.2	21	92.6	0	-	-	-	4	17.6	2	8.8	21	92.6	5	22.0	7	30.9	24	105.8		
	26	174	-	42	183.2	1	4.4	-	-	28	122.2	18	78.5	5	21.8	16	69.8	3	13	-	-	2	8.7	4	17.5	15	65.4	6	26.2	5	21.8	29	126.5		
	27	184	0	59	253.5	0	-	0	-	18	77.3	19	81.6	4	17.2	17	73.0	0	-	0	-	1	4.3	4	17.2	16	68.7	9	38.7	3	12.9	34	146.1		
愛知県	H27	64,060	136	18,911	258.5	560	7.7	237	3.2	8,490	116.1	5,186	70.9	921	12.6	5,351	73.1	650	8.9	50	0.7	730	10.0	1,159	15.8	4,452	60.9	1,979	27.0	1,172	16.0	14,077	192.4		
全国	H27	1,290,444	1,956	370,346	295.5	13,327	10.6	6,726	5.4	196,113	156.5	111,973	89.4	16,887	13.5	120,953	96.5	15,756	12.6	1,511	1.2	15,659	12.5	24,560	19.6	84,810	67.7	38,306	30.6	23,152	18.5	248,409	198.2		

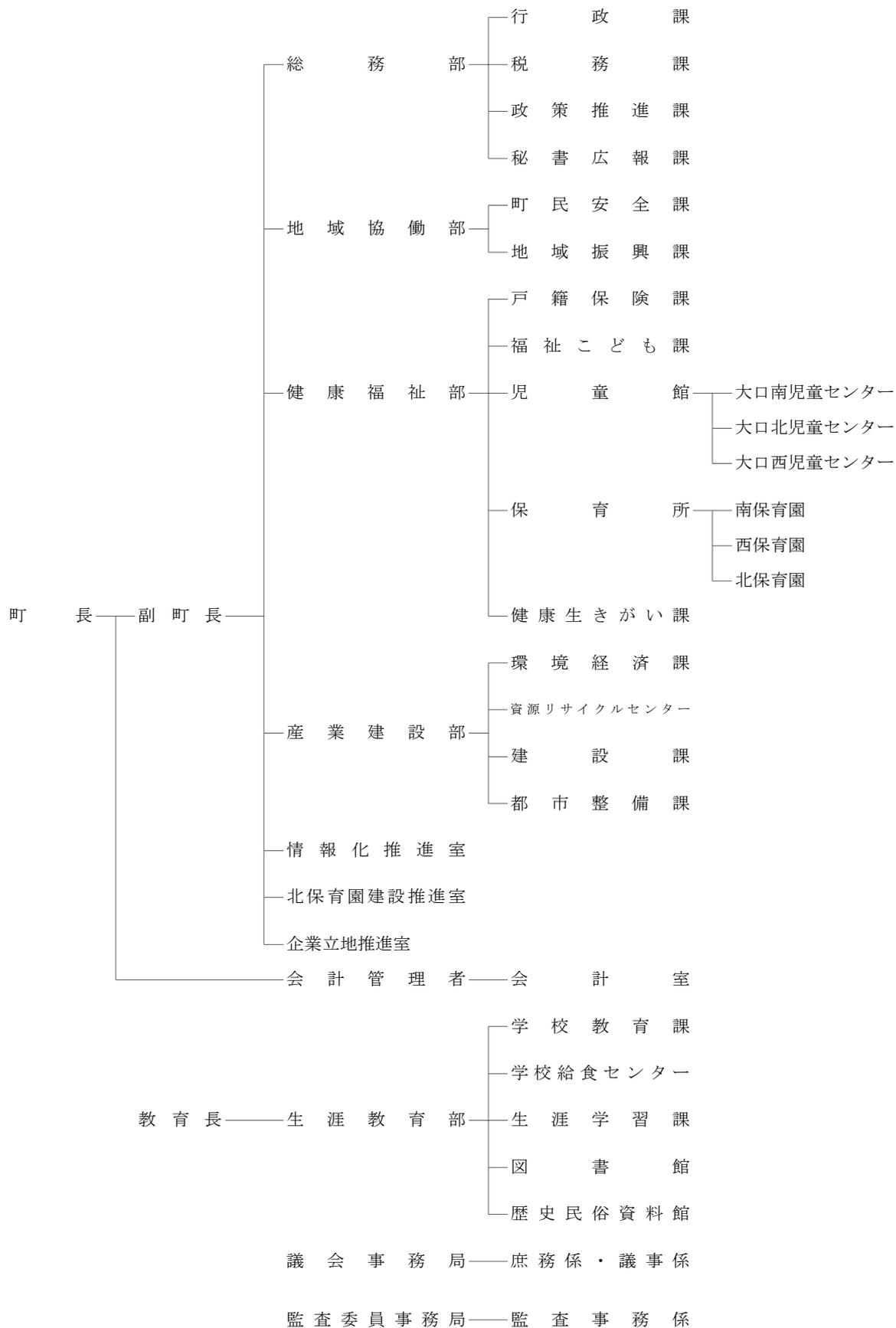
※大口町：平成27年愛知県衛生年報、愛知県及び全国：平成27年江南保健所事業概要より

選択死因別死亡割合



6 大口町機構図

平成28年4月1日現在



7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成 10 年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目 3 5 番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造 5 階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
 - 1 階 1,847.40 m² 保健センター（専用面積 974.78 m²）
 - 2 階 1,639.98 m² 保健センター（専用面積 611.92 m²）
社会福祉協議会
 - 3 階 1,106.63 m² 歴史民俗資料館
 - 4 階 1,106.63 m² 研修センター
 - 5 階 1,106.63 m² トレーニングセンター
- PH 階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本体施設 5,069.95 m²
駐車場 5,344.00 m² (平成 27 年度に拡張)

- ・本体施設の工期
 - 着工 平成 9 年 6 月 24 日
 - 竣工 平成 10 年 9 月 24 日
- ・使用開始年月日
平成 10 年 11 月 9 日

(2) 保健センターの主要施設

- 1 階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室
- 2 階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室

(3) 事務分掌

- ア 健康づくり推進事業
- イ 地域保健（医療）対策事業
- ウ 予防事業
- エ 成人保健事業
- オ 母子保健事業
- カ 健康文化センター管理事業

(4) 主な事業内容

母子保健…母子健康手帳交付説明会、妊婦相談、母親教室、妊婦・乳児健康診査、妊婦歯科健診、フレッシュママの会、リフレッシュママの会、乳幼児健康診査（4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、離乳食教室、子育て相談室、すくすく子育てサロン、たんぽぽ教室、2歳児歯科健診、一般不妊治療費助成事業、子育てサークル等支援

成人保健…肺がん検診（結核検診を含む）、特定健康診査・特定保健指導、肝炎ウイルス検診、がん検診（胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺）、ピロリ抗体及びペプシノゲン検査、一般健康診査、わかば健康診査、歯周病予防健診、骨密度測定、健康手帳交付、健康相談、健康教育、歩く健康の集い、健康づくり自主グループ支援

予防接種…集団接種：BCG

個別接種：【乳幼児・学童】

四種混合、急性灰白髄炎（不活化ポリオ）、B型肝炎、二種混合、小児肺炎球菌(13価)、麻疹・風疹混合（MR）、麻疹、風疹、ヒブ、水痘、日本脳炎、子宮頸がん(2価・4価)

【高齢者】

季節性インフルエンザ、肺炎球菌(23価)

任意接種：風しん抗体検査及び風しんワクチン接種費用助成事業

高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用助成事業

家庭訪問…出生児(原則)全員、低出生体重児及び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、生活習慣病重症化予防等

健康推進事業…健康おおぐち21第二次計画の推進事業、健康推進員活動、健康まつり等

その他…健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月) ・愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日) ・赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月～) ・母子保健システム、予防接種電算化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(MMGを導入)を実施し、自己負担金を徴収する ・住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月) ・保健師2名・看護師1名採用(4月) ・保健師1名嘱託採用(4～3月)(訪問看護ステーション) ・保健師1名育休(4月～3月) <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月) ・児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月) ・健康おおぐち21「元気体操」作成(2月) ・「健康おおぐち21」推進イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日) ・健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月) ・大口町次世代育成支援行動計画を策定(3月) ・大口町訪問看護ステーション廃止(3月) ・虐待防止連絡会担当者会議開始(3月) ・愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回) ・BCG直接接種となる(4月) ・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月) ・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月) ・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月) ・ちゅーりっぷの会中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査を除く各種検診を有料とする ・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月～10月) ・わかば健診時歯科健診実施 ・8020運動表彰を「健康ウォーク&元気まつり」時に実施 ・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施 ・大屋敷ひだまりの会休止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行(4月) ・発達障害支援法施行(4月) ・医療観察法施行(7月) ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施 ・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月) ・第6次大口町総合計画策定(3月) ・保健師1名退職(3月) ・大口町母子通園事業試行(4月～3月) ・在宅介護支援センター廃止(3月) ・看護師1名育休(1月～3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政	法・その他	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・麻疹風疹混合ワクチン接種施行（4月） ・個別予防接種が二市二町共通要領にて実施となる（4月） ・麻疹及び風疹の単抗原ワクチンも法定内接種となる（6月） ・母親教室の名称を変更し、内容を改編し、パパママ教室を育児編・栄養編として実施（各年6回） ・たんぽぽ教室を月2回実施 ・9か月児健診を10か月児健診とする ・マタニティーホルダーを希望者に配布開始（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室（しなやかお達者教室）を豊田地区で実施 ・男性のための健康づくり教室元気UPヘルシーライフ教室実施 ・住民結核検診の対象が40歳以上となる ・ひだまりの会（中小口）の健康チェックをハートフルへ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを町直営で開始（保健師1名福祉課へ異動） ・看護師1名育休（4月～3月） ・管理栄養士1名産育休（9月～3月） ・改正介護保険法の施行 ・がん対策基本法の制定（6月） （施行は19年4月） ・障害者自立支援法の施行（4月） ・高齢者・障害者等の移動等の円滑化に関する法律（新バリアフリー法）の制定（6月） ・健康保険法等の一部改正法（医療制度改革関連法）制定・公布（7月） ・歯科衛生士（臨時）1名常勤採用（4月） ・母子通園事業本格実施
19	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健康診査を医療機関に委託で実施 ・プレママ交流会（栄養編・育児編）の実施 ・歯科健診の対象者を2歳3か月児とする ・1歳6か月児健診時の歯科染めだしを廃止 ・子育て相談室に心理相談員を組み入れる ・西小学校区連絡会発足（健康部会に参加） ・妊婦健康診査の公費負担を4～9月までは4回、10月から7回で実施 ・一般不妊治療費の助成を実施（10月） ・予防接種法施行規則の一部を改正する省令施行（12月） ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令（20年1月） ・麻疹に関する特定感染症予防指針（20年1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん健診の医療機関での視触診のみを廃止、集団での超音波による健診を導入 ・国保連合会事業として「ヨーガ」教室を実施 ・介護予防事業のための人材育成（貯筋体操ひろめ隊）講座を実施 ・介護予防連絡会開始（地域包括支援センターより発信） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休（4月～3月） ・管理栄養士1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（9月～3月） ・健康おおぐち21中間評価を実施 ・健康まつり運営事業を「健康クラブ笑顔21」と協働契約で委託実施 ・老人保健法の改正（20年3月）

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
20	<ul style="list-style-type: none"> 第3期・4期麻疹風しん混合ワクチン接種施行(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> 国保連合会事業として生き生き教室実施 特定健診、特定保健指導開始(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師1名育休(4月～3月) 保健師1名育休(4月～3月) 保健師1名育休(11月～3月) 老人保健法の改正により、法律名が「高齢者の医療の確保に関する法律」に変更され施行(4月)
21	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦健康診査の公費負担を14回で実施 日本脳炎ワクチンに加え、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」を定期の予防接種に用いるワクチンとして追加する(6月) 予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がん・子宮がん検診実施医療機関を拡大 女性特有のがん検診推進事業開始(9月) 	<p>機構改革により、健康課から健康生きがい課となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師2名採用 看護師1名育休(4月～3月) 保健師1名育休(4月～3月) 保健師1名育休(5月～3月) 保健師1名育休(3月～) アメリカで豚由来のインフルエンザウイルスの患者を確認と公表 WHO「フェーズ6(流行)宣言」 国「基本的対処方針」策定 国「新型インフルエンザワクチン接種の基本方針」策定
22	<ul style="list-style-type: none"> 3歳に対する日本脳炎初回接種の積極的勧奨が再開(4月) 日本脳炎ワクチンが使用不可となり、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」のみの使用 第2期接種再開となる 9歳以上13歳未満で第1期未接種者を接種対象とする特例が出る(8月) 「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例基金事業」により、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部助成が開始(1月) 妊婦健康診査の公費負担項目に子宮頸がん、GBSが追加。超音波検査の年齢条件がなくなり、検査は4回実施。乳児健康診査受診票が1回のみとなる パパママ教室、プレママ交流会の休止 	<ul style="list-style-type: none"> 女性特有のがん検診事業クーポン券5月に発送 1月に未受診者に受診勧奨通知 前立腺がん検診定員を拡大 介護・保険・健康の連携した取り組みを開始 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師3名育休(4月～3月) 管理栄養士1名育休(4月～3月) 保健師1名退職(12月) 地域包括支援センターをハートフル大口へ委託(4月) 新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種事業が終了(23年3月) 国保・介護・健康の連携プロジェクト(PPKプロジェクト)の立ち上げ

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
23	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健診8回目にHTLV-1とクラミジア抗体検査を追加 ・子育て相談室の第1週目を廃止(平成24年1月～) ・4か月健診時 母乳相談を開始(平成24年1月～) <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本脳炎の年齢枠が拡大(H7.6.1生まれ～H19.4.1生まれ 20歳未満の間接種可に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかば健診時に実施していた歯科健診を中止 ・大腸がん検診を各種集団がん検診時に申し込みできる体制にする。 ・高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成事業開始(6月～) ・歯周病予防健診を年間通じて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師1名戸籍保険課へ異動 ・看護師1名産休育休(9月～3月) ・保健師1名育休(4月～3月) ・保健師1名退職(3月) <ul style="list-style-type: none"> ・歯科口腔保健の推進に関する法律(平成23年8月10日公布) ・ドアノッキング事業開始(24年1月～) ・愛知県の新型インフルエンザ対策行動計画の改定(平成24年2月)
24	<ul style="list-style-type: none"> ・北児童センターにて出張子育て相談を実施(単年) ・一般不妊治療費助成事業の助成内容の変更(対象となる治療内容と助成額) <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～尾張北部医療圏域内での広域予防接種の開始 ・9月～ポリオに係る使用ワクチンが“生ワクチン”から“不活化ワクチン”に変更 ・11月～ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオ予防接種に使用するワクチンに「四種混合ワクチン」が追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のがん検診の同日開催の実施 ・国保連合会事業としてポールウォーキング教室(12回)の実施 ・ポールウォーキングの自主グループの立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休(4月～3月) ・保健師1名産休育休(5月～3月) ・保健師1名採用(任期付き) <ul style="list-style-type: none"> ・健康実態調査の実施 ・大口町制50周年 <ul style="list-style-type: none"> ・電算システム「super 保健師さん」から「健康かるて」へ変更 ・国保・介護・健康プロジェクトに福祉を加え、名称をPPKプロジェクトから元気づくりプロジェクトに変更 ・新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成24年5月制定) ・大口町新型インフルエンザ等対策本部条例(平成25年3月制定)
25	<ul style="list-style-type: none"> ・低出生体重児訪問の実施(未熟児訪問、未熟児養育医療給付の市町村への権限移譲) <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCG ワクチンの接種期間の延長 ・子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌予防接種の定期接種の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関胃がん検診に胃内視鏡検査を導入 ・がん検診実施医療機関の追加(山田外科内科、みどりクリニック、伊藤整形内科あいち腰痛オペクリニック) ・ポールウォーキングリーダー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法の改正(平成25年3月30日公布、4月1日施行) ・健康おおぐち21第二次計画策定(平成26年3月) ・第7期健康推進員開始、任期2年となる ・保健師1名採用 ・看護師1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(4月～3月) ・新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成25年4月施行)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
25	<ul style="list-style-type: none"> <予防接種> ・子宮頸がん予防接種の積極的勧奨の差し控え（6月～） ・妊娠を予定または希望する女性とその夫に対する風しんワクチン接種費用の助成（7月～） 		<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ等対策政府行動計画策定（平成25年6月） ・愛知県新型インフルエンザ等対策行動計画策定（平成25年11月）
26	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦乳児健診に加え、産婦健診の費用補助を開始（4月～） <予防接種> ・水痘、高齢者肺炎球菌定期接種の実施（10月～） ・乳幼児及び学童のA類定期予防接種において、愛知県広域予防接種開始（4月～） ・同一ワクチンの接種間隔の上限が撤廃された ・大人の風疹ワクチン接種費用の助成に加え、風疹抗体検査費用の助成を開始（4月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病予防健診の対象者を40歳以上とし、無料とする。（4月～） ・節目年齢（40・45・50・55・60歳）の人のがん検診の自己負担金を無料とする。 ・乳がん検診の拡充（MMGの年齢を35歳から引き下げ、超音波検査は、20歳以上は毎年受診可能とする。また、集団検診に加え、医療機関（さくら総合病院、犬山中央病院、江南厚生病院、伊藤整形内科あいち腰痛オペクリニック、すずいクリニック、山田外科・内科）での実施も開始 ・子宮頸がん検診の無料クーポン券の対象者を、20・40・45・50・55・60歳とする。 ・ヘリコバクターピロリ抗体及びペプシノゲン検査実施（11月～） ・高齢者肺炎球菌予防接種費用助成事業の助成内容の変更（対象者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法の改正（平成26年3月28日公布、4月1日施行）（平成26年7月16日公布、10月1日施行） ・保健師1名育休（4月～3月） ・歯科衛生士（臨職）1名退職（3月） ・大口町新型インフルエンザ等対策行動計画策定（平成27年3月）
27	<ul style="list-style-type: none"> ・BCG 予防接種時に保護者を対象とした「2万人体力測定」を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム在宅医療・介護連携事業開始（H30年度～の実施に向けて） ・糖尿病重症化予防講座を実施 ・高齢者対象のポールウォーキング講座を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町データヘルス計画（保健事業実施計画）策定（平成28年3月） ・保健師1名育休（4月～3月） ・保健師2名産休（11月～1月・1月～3月） ・歯科衛生士（臨職）1名採用 ・地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業 2地区で実施（いきいき100歳体操） ・健康マイレージ事業開始に向けた検討部会実施

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
28	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦対象の母親教室の再開。 ・7・8か月児を対象とした子育てサロンを新規開催。 ・歯科健診の対象を2歳児と2歳6か月児に変更 <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児のB型肝炎ワクチンのA類定期予防接種が開始される(10月～) ・高齢者のB類定期予防接種が愛知県広域予防接種に追加された(4月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携事業について、尾北医師会サポートセンターの支援を受ける ・国保の糖尿病重症化予防モデル事業を、戸籍保険課と共同で受ける ・子育て中の母親を対象とした運動教室を実施。その後、自主グループ化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師2名採用 ・保健師1名退職(H29.2.28) ・保健師2名育休(4月～3月) ・歯科衛生士(臨職)1名退職(3月) ・健康マイレージ事業開始(8月～) ・大口町業務継続計画(新型インフルエンザ等編)策定(3月) ・介護予防事業を地域包括支援センターに委託

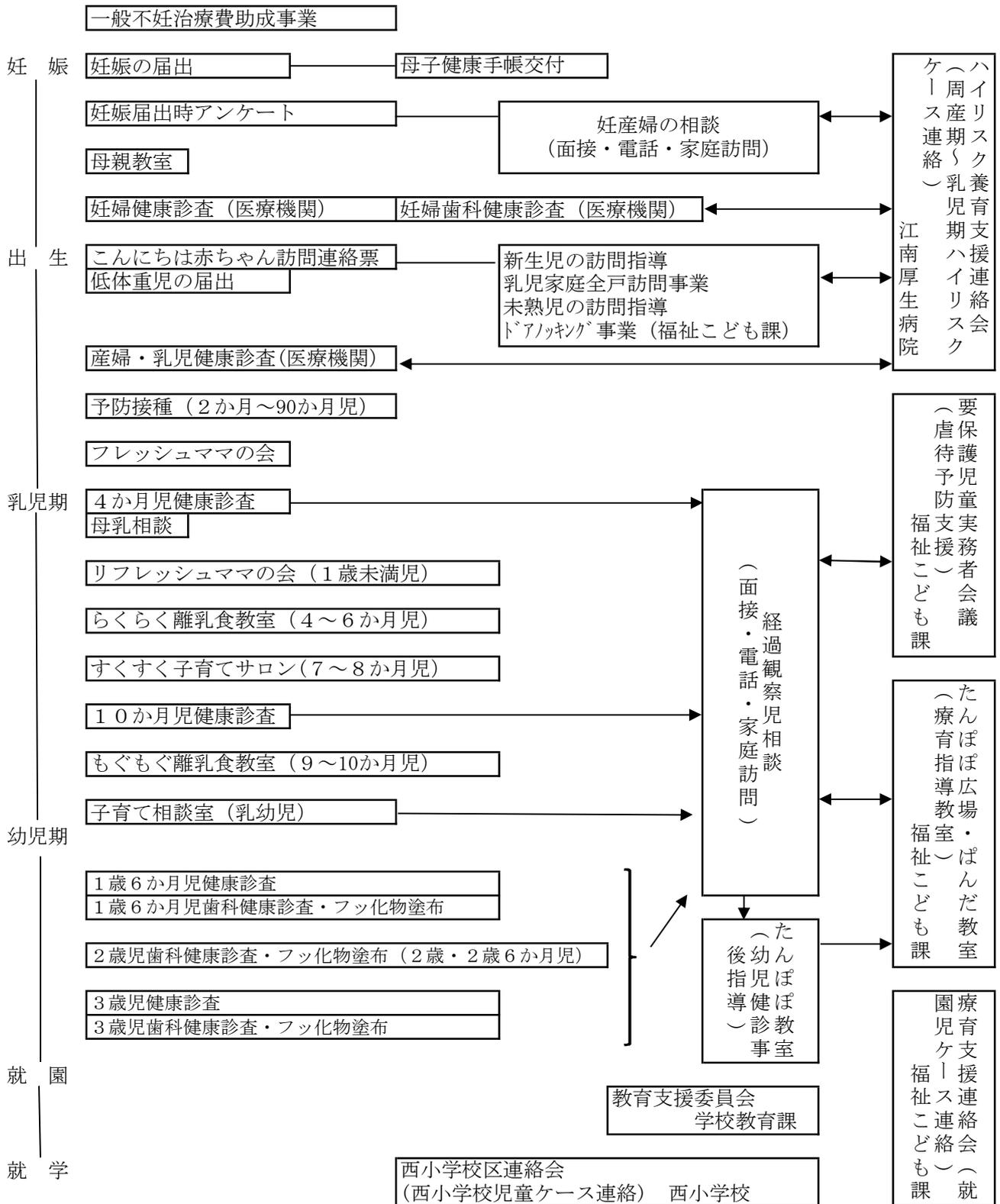
※平成元年～15年までは「平成21年度保健活動のまとめ」に記載。

2 母子保健活動

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業では、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛されかつ心身ともに健やかに育つことを目指し、子どもの発達や親の育児力に合わせた保健指導を行った。支援が必要なケースについては、医療機関や母子通園施設、福祉こども課等関係機関と連携して就学前まで継続的な子育て支援を行った。

母子保健 管理体系



2 一般不妊治療費助成事業

不妊症と診断され人工授精の治療を受けた夫婦を対象に、治療に要した自己負担額の1/2相当額を1年度あたり45,000円を限度に助成した。

(1) 助成状況

年度	助成実組数 (新規申請数再掲)	うち母子健康手帳の 交付を受けた者の数
H26	9 (7) 組	1人
H27	9 (5) 組	2人
H28	15 (13) 組	6人

3 母子健康手帳の交付

妊娠の届出により母子健康手帳を交付し、妊婦が妊娠中を心身ともに健康に過ごし無事に出産を迎えることができるよう妊娠中及び産後の生活について保健指導を実施した。

(1) 日 時 説明会：毎月第1・3木曜日 午前10時～11時30分
随時

(2) 内 容 母子健康手帳の交付 保健指導（母子健康手帳の使い方・妊娠中の生活）
DVD視聴（「赤ちゃんのこころを育む親と子のふれあい」） 座談会
*随時の場合は手帳の交付と保健指導のみ

(3) 従事者 保健師 歯科衛生士 管理栄養士

(4) 妊娠届出者の状況 (単位：人)

年度	妊娠届出数	妊娠週数				
		11週以内	12～19週	20～27週	28週以上	分娩後
H27	219	192 (87.7%)	24 (11.0%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
H28	240	222 (92.5%)	17 (7.1%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(単位：人)

年度	年齢		初産婦	就業有	喫煙有	飲酒有
	20歳未満	40歳以上				
H27	5 (2.3%)	9 (4.1%)	110 (50.2%)	159 (72.6%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)
H28	1 (0.4%)	10 (4.2%)	103 (42.9%)	129 (53.8%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)

4 妊産婦乳児健康診査

妊娠の正常な経過や安全な分娩、産褥期の健康管理及び乳児の発達を支援するため、定期的な受診ができるように14回分の妊婦健康診査、産婦健康診査及び1か月児健康診査に対し受診票を発行し健診費用を助成した。

受診票利用状況（平成28年4月～平成29年3月受診）

内容	受診者数 (人)	医師判定(人)		所見(人)		
		異常なし	異常あり	蛋白尿 (2+以上)	尿糖 (2+以上)	血算 (異常あり)
子宮頸がん	237 (5)	232	5			
第1回	230 (0)	224	6	2	6	
第2回	213 (1)	211	2	0	0	
第3回	215 (2)	211	4	0	1	
第4回	209 (5)	205	4	1	3	
第5回	217 (5)	206	11	0	8	
第6回	216 (5)	211	5	4	6	
第7回	212 (11)	197	15	1	4	
第8回	232 (4)	180	52	3	3	44
第9回	203 (19)	195	8	1	4	
第10回	222 (21)	202	20	1	3	
第11回	181 (21)	172	9	3	0	
第12回	205 (20)	154	51	1	5	48
第13回	137 (19)	135	2	1	1	
第14回	81 (12)	78	3	2	0	
1～14回合計	2,773	2,581	192	20	44	92
産婦健康診査	219	215	4	0	0	
乳児健康診査	224	219	5			

() 内は県外受診の再掲

5 家庭訪問

乳児家庭全戸訪問事業においては、乳児家庭の孤立化を防ぐために助産師又は保健師が生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供を行うとともに親子の健康状態や養育環境を把握し保健指導を行った。また、若年や妊娠高血圧症等のハイリスク妊婦、発達や発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある親子、乳幼児健診未受診者に対し、安心して出産、育児ができるよう家庭を訪問し支援した。

(1) 従事者 保健師 助産師

(2) 実施状況（平成28年4月～平成29年3月実施分）（内、里帰り訪問 4件）（単位：人）

	妊婦		産婦		新生児		低出生体重児		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
実施数	1	2	245	245	11	11	20	20	219	224	18	30
(再掲) 乳児家庭 全戸訪問事業					11		20		214			

●過去3年間の低出生体重児の状況（単位：人）

年	出生数	低体重児出生数	率 (%)	1,300g	1,300g	1,500g	1,800g	2,000g	2,300g
				未満	～ 1,499g	～ 1,799g	～ 1,999g	～ 2,299g	～ 2,499g
H25	199	12	6.0	—	—	—	—	5	7
H26	241	27	11.2	1	1	2	1	5	17
H27	229	20	8.7	—	—	—	—	10	10
愛知県H27 (名古屋市除く)	46,009	4,461	9.7	240	106	226	323	1,252	2,314

(愛知県衛生年報より)

6 母親教室

出産や育児に不安を抱える母親が、安心して楽しく育児ができるような支援が必要である。妊産婦に対して、妊娠・出産・育児についての正しい知識を普及するとともに、母親等の仲間づくりを支援することにより、出産や育児に対する不安を軽減することを目的に、休止していた母親教室を平成28年度より実施した。

- (1) 日 時 奇数月第2水曜日 午後1時30分～3時30分
9月7日のみ、午前9時30分～11時30分
- (2) 内 容 講義「出産育児に向けてのからだづくりと母乳哺育について」
交流会（妊婦・すくすく子育てサロン参加者）
個別相談
- (3) 従事者 助産師 保健師

(4) 参加状況	年度	実施回数	参加者数（産婦再掲）
	H28	5回	32（1）人

7 すくすく子育てサロン

乳児の健康や保育に関する正しい知識を普及し、また、親子のふれあいの大切さを伝えることにより健全な子どもの育成を支援するとともに、母親同士の交流を図ることで乳児期の母親の孤立防止及び育児不安の軽減を図ることを目的に実施した。

- (1) 日 時 奇数月第2水曜日 午後2時～3時30分
9月7日のみ、午前10時～11時30分
- (2) 内 容 事故予防について（DVD視聴）
離乳食の話（離乳食中期～完了期）
親子ふれあい遊び
交流会（すくすく子育てサロン参加者・母親教室参加者）
- (3) 従事者 管理栄養士 保育士 保健師

(4) 参加状況	年度	実施回数	参加者数
	H28	5回	32組

8 フレッシュママの会

育児の悩みを抱えやすい産後間もない母親同士が悩みを共感し前向きに育児に取り組めるように、仲間づくりを目的として生後2、3か月児の母親を対象にフレッシュママの会を開催した。平成26年度から、乳児の母親同士で情報交換ができるよう4か月から10か月までの親子を対象に交流会の場所を設定した。

- (1) 日 時 偶数月第4金曜日 午後1時30分～3時
- (2) 内 容 身体計測 座談会 ベビーマッサージ 集団指導（母親の食生活・保健事業の紹介・予防接種の受け方）*4～10か月児交流会は場所の提供のみ。
- (3) 従事者 助産師 保健師 管理栄養士

(4) 参加状況	年度	実施回数	参加数（初産再掲）	
			フレッシュママの会	4～10か月児交流会
	H26	6回	66（42）組	60組
	H27	6回	64（41）組	15組
	H28	6回	71（50）組	43組

9 子育て相談室

育児不安等の問題を抱える保護者が安心して育児に取り組めるよう発育相談、育児相談、栄養相談、発達相談を実施した。

(1) 日 時 毎月第3月曜日 午前9時～11時30分 (心理相談員による発達相談は奇数月)
助産師による母乳相談は毎月第4水曜日 午後1時30分～2時15分

(2) 内 容 身体計測 育児相談 経過観察児相談 母乳相談

(3) 従事者 保健師 看護師 管理栄養士 心理相談員 助産師 歯科衛生士

(4) 相談者の状況 (単位：人)

年度	利用者総数		再掲					
			妊婦		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
H27	207	361	0	0	123	267	84	94
H28	189	349	0	0	100	240	89	109

<内訳> (単位：人)

従事者	相談者総数<重複>		再掲					
			妊婦		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
保健師	74	89	0	0	34(18)	46(23)	40(30)	43(33)
助産師	34	41	0	0	32(8)	39(12)	2(0)	2(0)
栄養士	27	38	0	0	13(4)	19(8)	14(1)	19(3)
歯科衛生士	2	2	0	0	1(0)	1(0)	1(0)	1(0)
心理相談員	6	6					6(6)	6(6)
検尿	47	51	0	0			47(47)	51(51)
身体計測のみ	50	136			50	136		

※ () 健診事後指導者数再掲

* 子育て相談日以外の母子保健に関する相談

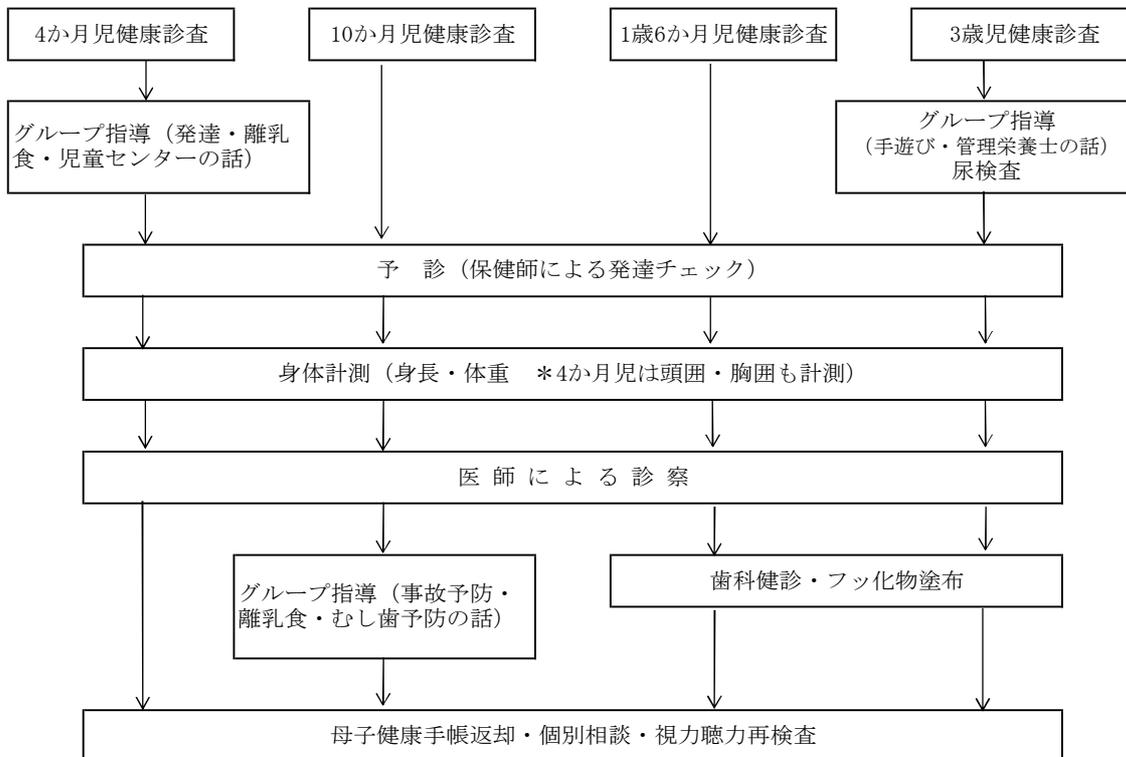
従事者 (人)		保健師 (5)	管理栄養士 (2)	歯科衛生士 (1)	看護師 (1)
面接相談	被指導実人数 (人)	107	4	1	9
	被指導延人数 (人)	113	4	1	9
電話相談・被指導者数 (人)		178	12	0	27

* 看護師の相談は全て予防接種に関する相談

10 乳幼児健康診査

乳幼児期の大切な節目である時期に、先天性異常や視聴覚、運動機能、精神発達等の異常を早期に発見し、適切な指導を行い心身障害の進行を未然に防止するとともにむし歯の予防、発育、栄養、生活習慣、その他の育児に関する指導を行い、乳幼児の健康の保持及び増進を図ることを目的として乳幼児健康診査を実施した。

(1) 内容



(2) 4か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H27	12	233	227	97.4%	199 (87.7)	15 (6.6)	11 (4.8)	1 (0.4)	1 (0.4)
H28	12	238	241	101.3%	209 (86.7)	18 (7.5)	8 (3.3)	1 (0.4)	5 (2.1)
愛知県 (H27)		36,235	35,574	98.2%	81.4%	6.7%	7.3%	1.1%	3.6%

4か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因 (発達)				子の要因 (その他)				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H27	226 (99.6)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	205 (90.3)	10 (4.4)	11 (4.8)	1 (0.4)	210 (92.5)	4 (1.8)	13 (5.7)	0 (0.0)	227 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H28	239 (99.2)	0 (0.0)	2 (0.8)	0 (0.0)	225 (93.4)	6 (2.5)	10 (4.1)	0 (0.0)	217 (90.0)	7 (2.9)	17 (7.1)	0 (0.0)	241 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
愛知県 (H27)	91.4%	3.4%	5.0%	0.2%	79.0%	12.8%	6.5%	1.7%	85.7%	9.0%	5.1%	0.2%	98.9%	0.7%	0.4%	0.0%

(3) 10か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H27	12	262	258	98.5%	236 (91.5)	10 (3.9)	10 (3.9)	2 (0.8)	0 (0.0)
H28	12	242	242	100.0%	199 (82.2)	17 (7.0)	25 (10.3)	1 (0.4)	0 (0.0)

10か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H27	253 (98.1)	3 (1.2)	2 (0.8)	0 (0.0)	226 (87.6)	16 (6.2)	16 (6.2)	0 (0.0)	218 (84.5)	18 (7.0)	22 (8.5)	0 (0.0)	257 (99.6)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
H28	228 (94.2)	3 (1.2)	11 (4.5)	0 (0.0)	219 (90.5)	11 (4.5)	12 (5.0)	0 (0.0)	208 (86.0)	20 (8.3)	14 (5.8)	0 (0.0)	241 (99.6)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)

(4) 1歳6か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H27	12	230	224	97.4%	203 (90.6)	10 (4.5)	10 (4.5)	0 (0.0)	1 (0.4)
H28	12	259	262	101.2%	220 (84.0)	19 (7.3)	23 (8.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
愛知県 (H27)		36,514	35,812	98.1%	82.3%	5.3%	9.9%	0.5%	2.0%

1歳6か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H27	93 (41.5)	38 (17.0)	93 (41.5)	0 (0.0)	217 (96.9)	6 (2.7)	1 (0.4)	0 (0.0)	186 (83.0)	13 (5.8)	25 (11.2)	0 (0.0)	224 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H28	103 (39.3)	141 (53.8)	17 (6.5)	1 (0.4)	258 (98.5)	4 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	224 (85.5)	21 (8.0)	16 (6.1)	1 (0.4)	262 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
愛知県 (H27)	47.4%	17.4%	34.7%	0.4%	82.4%	12.3%	4.1%	1.1%	84.3%	10.7%	4.8%	0.2%	98.0%	1.6%	0.4%	0.0%

(5) 3歳児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H27	12	241	232	96.3%	189 (81.5)	10 (4.3)	4 (1.7)	0 (0.0)	29 (12.5)
H28	12	218	215	98.6%	181 (84.2)	7 (3.3)	2 (0.9)	0 (0.0)	25 (11.6)
愛知県 (H27)		38,164	37,105	97.2%	77.1%	4.5%	9.0%	0.6%	8.8%

3歳児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H27	162 (69.8)	7 (3.0)	48 (20.7)	15 (6.5)	226 (97.4)	5 (2.2)	1 (0.4)	0 (0.0)	213 (91.8)	8 (3.4)	10 (4.3)	1 (0.4)	232 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H28	146 (68.0)	24 (11.2)	35 (16.3)	10 (4.7)	207 (96.3)	6 (2.8)	2 (0.9)	0 (0.0)	190 (88.3)	6 (2.8)	17 (7.9)	2 (0.9)	214 (100)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
愛知県 (H27)	67.2%	15.6%	14.1%	3.1%	67.8%	17.6%	12.6%	1.9%	88.6%	7.8%	3.4%	0.2%	97.9%	1.8%	0.3%	0.1%

※ (1) ~ (5) () 内は小数点第二位を四捨五入した値

1 1 離乳食教室

(1) 目的及び対象者等

	らくらく離乳食教室（前期）	もぐもぐ教室（後期）
目的	離乳食の開始から7か月頃の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。	咀嚼の促しの必要性や歯の萌出に合わせた離乳食の形態を理解し作ることができる。また、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。
対象者	生後5～7か月児とその保護者	生後8～11か月児とその保護者
日時	奇数月第3水曜日（年6回） 午前10時～11時30分	偶数月第3水曜日（年6回） 午前9時30分～11時30分
内容	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食の開始から7か月頃の講話 離乳食のデモンストレーションとその試食 個別相談（希望者） 	<ul style="list-style-type: none"> 9か月頃以降の進め方についての講話 調理実習（親の食事からの取り分け食） 試食と個別相談（希望者）
従事者	管理栄養士 保健師	
場所	健康文化センター1階 栄養実習室・栄養指導室	

(2) 参加状況

(ア) らくらく離乳食教室の参加内訳 1回あたり11人の参加

参加人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児	個別相談者	第1子	第2子
74人	18人	55人	1人	28人	61人	13人

(イ) もぐもぐ教室の参加内訳 1回あたり10.5人の参加

参加人数	9か月未満児	9・10か月児	11か月以上児	個別相談者	第1子	第2子
49人	9人	34人	6人	35人	37人	12人

らくらく離乳食教室では、離乳食開始時期を生後6か月以降に計画する保護者が多い。個別相談の内容は、授乳と離乳食の基本的な進め方や調理方法についての質問の他、離乳食を与えたときの子どもの反応や食べ方に不安を感じて相談する人が多い。また、食物アレルギーを心配して食品を増やすことに抵抗をもつ保護者や果物の調理方法などの相談が多い。食事内容だけでなく、試食中は離乳食を与える際の抱き方の指導をすることが多い。その他にも、食べる姿勢の保持やスプーンの与え方、嚥下など多岐にわたる。

もぐもぐ教室は、ほとんどの参加者が普段の離乳食の内容や食形態に対して「これでいいのか」といった漠然とした不安を抱いて参加していることが相談内容からうかがえる。個別相談では、食形態のすすめ方や生活リズム、ベビーフードの利用や母の職場復帰に向けた保育園対応など多岐にわたり、集団での講義内容は理解している保護者が多い中、現状を確認する質問が多い。また、調理実習や試食を体験することで、食材の切り方や我が子の咀嚼力に驚きを示す保護者が多い。参加後の感想からは、実習において実際に大人の食事から取り分けて離乳食を作ることで、家庭の離乳食と比較したり食べ方をみたりし、今後のすすめ方に見通しが持てたといった前向きな感想が多い。

12 たんぽぽ教室

1歳6か月児及び3歳児健康診査等で育児や発達について経過観察が必要となった親子を対象に、経過観察とともに親子遊びを通して子どもの発達を促し、また、親が子どもの対応を学び子育ての困難さや不安を軽減できるよう支援することを目的として教室を開催した。教室を終了した親子には、必要に応じ継続して療育指導を受けられるよう母子通園施設やたんぽぽ広場の参加を勧奨した。

- (1) 日 時 毎月第2・4木曜日 午前9時45分～正午
(スタッフカンファレンスは午前9時15分～9時45分、午後1時～3時)
- (2) 参加回数 1クール6回 (必要に応じ2クールまで継続参加)
- (3) 従事者 保健師 保育士 心理相談員 (第2木曜日) 言語聴覚士 (第4木曜日)
家庭児童相談員 (年12回) 母子通園施設保育士 (年4回)
- (4) 内 容

時 間	内 容
9:45～10:00	出席シール貼り
10:00～11:00	自由遊び、あいさつ、体操 ふれあい遊び、手遊び、絵本よみきかせ 設定遊び (新聞、粘土、風呂敷、お絵描き、サーキット、制作)
11:00～11:30	母子分離 (1クール2回実施。母親：心理相談員か言語聴覚士によるグループ話し合い、子ども：自由遊び)
11:30～正午	個別相談 (3回目・6回目)

- (5) 実施状況 (単位：人)

年度	回数	参加人数	
		実人数	延人数
H26	24	47	219
H27	24	38	169
H28	24	45	216

- (6) 参加者年齢内訳

H25年4月～H26年3月生まれの子 (次年度就園対象年齢)	25人
H26年4月～H27年3月生まれの子	20人

- (7) 教室終了後の状況

①母子通園施設を紹介	11人	(内参加希望なし2人)
②たんぽぽ広場を紹介	20人	(内参加希望なし1人)
③次年度継続参加を案内	4人	
④終了	11人	(内中断4人、就園5人、転出1人)

1 3 子育て支援・他機関との連携

(1) 赤ちゃん抱っこ体験（中学生子育て体験）

大口町次世代育成支援後期行動計画の「次代の親を育むための教育」として、中学生が乳幼児とのふれあいを通じて自分を大切にすゝる気持ちや命の尊さ、人を思いやる心を養うことを目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時・場所・参加者（中学生）

平成28年8月3日（火）午前9時30分～11時45分・北児童センター・7人

イ 従事者

児童センター厚生員 保健師 中学校養護教諭 子育てネットワーカー

(2) 療育支援連絡会

乳幼児期の療育支援のあり方についての検討会や要支援ケースの情報交換を目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時

平成28年5月12日（木） 8月4日（木） 11月10日（木） 平成29年2月2日（木）

午後3時～5時15分

イ 出席者

保育長 保育園（南・北・西・大口中） 母子通園 児童センター（南・北・西）
幼稚園（ラ・モーナ 大口） 家庭児童相談員 保健師

(3) 西小学校区連絡会

大口町の子どもたちを取り巻く様々な現状や課題について情報交換及び検討することを目的として開催された。（主催：西小学校）

ア 日時

<支援部会>平成28年5月10日（火）午後4時～5時 6月14日（火）午後3時～4時30分

平成28年11月4日（金）午後3時～16時30分

<支援部会・健康部会>平成29年2月9日（火）午後4時～5時30分

イ 出席者

西小学校 大口中学校 幼稚園（ラ・モーナ、大口） 保育園（北・西）
西児童センター 保育長 地域包括支援センター 保健師

(4) 要保護児童実務者会議

児童虐待に関する情報交換及び要保護児童等の実態把握、支援体制の検討を目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時

毎月第1木曜日 午後1時30分～3時

イ 出席者

一宮児童相談センター（児童福祉司） 尾張福祉相談センター（家庭児童相談員）
江南保健所（保健師） 福祉こども課 学校教育課 健康生きがい課（保健師）

(5) ハイリスク養育支援連絡会

江南厚生病院こども医療センター、NICU・GCU病棟、産婦人科を含む女性病棟、小児科及び産婦人科外来と、保健所、市町保健センターが連携を図り、ハイリスク児またはハイリスクの可能性のある児の家庭における育児支援体制を円滑にするための情報交換をすることを目的として開催された。(主催：江南厚生病院)

ア 日時

平成28年6月7日(火) 9月6日(火) 12月6日(火) 平成29年3月7日(火)

午後4時～5時

イ 出席者

江南厚生病院(こども医療センター 産婦人科病棟 NICU・GCU 小児科外来
産婦人科外来 患者相談支援センター)

江南保健所

保健センター(岩倉市 江南市 犬山市 扶桑町 大口町)

(6) ドアノッキング事業

子育てに悩み家にひきこもりがちになってしまう乳幼児期の子育て家庭に対し、地域ぐるみで家庭を見守り子育てを支援することで虐待を防止することを目的に、子育て情報のお知らせ等を行うドアノッキング訪問が実施された。(主催：福祉こども課)

ア 訪問時期

生後5～6か月と1歳頃

イ 従事者

主任児童委員

民生委員・児童委員

(7) たんぽぽ広場

たんぽぽ教室を終了した親子が就園するまで継続して地域で療育支援を受けられるよう西児童センターにおいて親子遊びの教室が開催された。(主催：福祉こども課)

(8) 保育園児に向けた食育の取り組み

町内の4保育園において保育園栄養士と連携し、給食を題材に食べ物の体への効果を子ども向けに説き、好き嫌いなくバランスよく食べる食行動ができるよう園児に啓発した。また、正しい姿勢や箸の持ち方、食べる姿勢やマナーを含めて食育を行った。

実施月及び対象児	内 容	実施人数
平成28年12月 年長児クラス	「食べ物とからだのしくみ(腸)について」 ・朝食の喫食状況と野菜摂取の聞き取り ・食べ物からうんちができるまで(いいうんちの形) ・箸の正しい持ち方とマナーと姿勢	149人
平成29年1月 年中児クラス	「赤・黄・緑をバランスよく食べて いいうんちを出そう」 ・朝食の喫食状況と野菜摂取の聞き取り ・食品の働きを知り、好き嫌いをしない ・箸の正しい持ち方とマナーと姿勢	142人
平成29年2月 年少児クラス	「好き嫌いなく食べていいうんちを出そう」 ・朝食の喫食状況と野菜摂取の聞き取り ・野菜の断面クイズ ・野菜のはたらきとうんちの形 ・箸の正しい持ち方とマナーと姿勢	95人

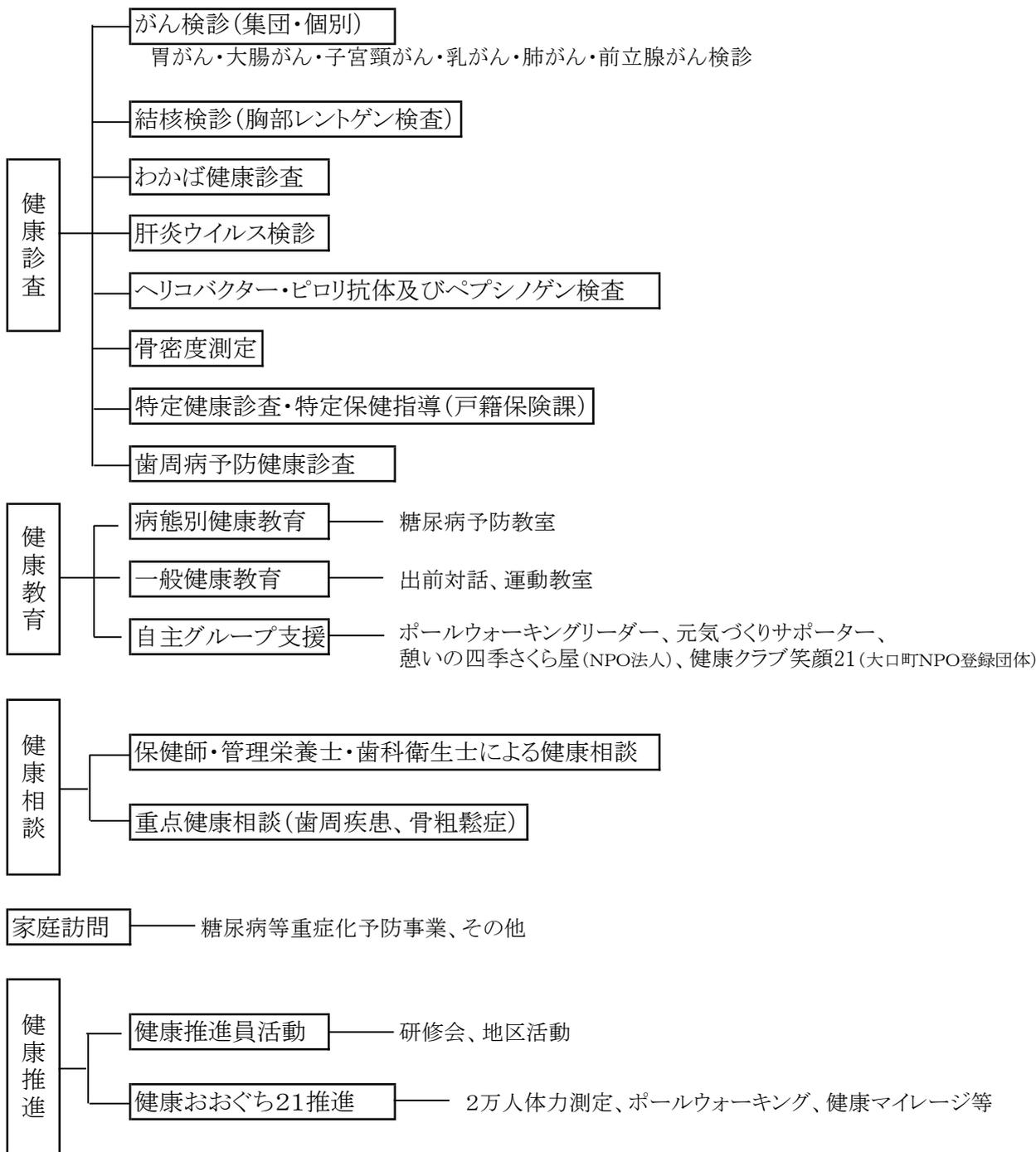
3 成人保健活動

1 成人保健事業の取り組み

すべての町民が、健康で生きがいのある自立した生活を全うできるよう、健康増進法に基づく保健事業を柱として取り組みを実施した。保健事業の対象は、成人期から高齢期に至るまでとし、医療機関や保健所、他部署等の関係機関と連携をとって、生活習慣病の早期発見、重症化予防とともに、「自分の健康は自分で守る」という積極的な健康行動への働きかけや動機づけに関する支援を行った。

成人保健管理体系

健康手帳(健康づくりノート、検診パスポート)の交付



2 健康手帳の交付

(1) 目的

がん検診や特定健康診査・保健指導等の記録、その他の健康の保持のために必要な事項を記載できる健康手帳を交付することにより、町民自らの健康管理と適切な医療行動を促す。

(2) 内容

10年間の検診受診状況や体力測定実施状況が記録できる検診パスポートを集団がん検診等の検診受診者に配布した。また、10年間の検診結果や体力測定結果、既往歴、健康目標等が記録できる健康づくりノートを健康教育及び重症化予防事業の参加者や健康マイレージポイント達成者に配布し、記録の活用を促すことで自主的な健康づくりの実践を支援した。

(3) 交付状況

ア 検診パスポート

(人)

交付数		40歳未満	40～74歳	75歳以上	新規交付	再交付
男性	70	3	44	23	52	18
女性	179	37	117	25	158	21
合計	249	40	161	48	210	39

イ 健康づくりノート

(人)

交付数		40歳未満	40～74歳	75歳以上	合計
男性	健康教育・健康相談参加者	0	0	0	40
	重症化予防事業対象者	0	2	13	
	特定保健指導対象者		4	12	
	健康マイレージ達成者	1	7	1	
女性	健康教育・健康相談参加者	325	5	0	380
	重症化予防事業対象者	0	1	15	
	特定保健指導対象者	0	2	2	
	健康マイレージ達成者	4	25	1	
合計		330	46	44	420

3 特定健康診査・特定保健指導

(1) 目的

高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、保険者は40歳以上の被保険者および被扶養者に対し、メタボリックシンドロームに着目した健康診査・保健指導を行うことにより、生活習慣病のリスク要因の減少を図り、糖尿病等、生活習慣病の有病者、予備群を減少させる。

(2) 特定健康診査の対象者

大口町国民健康保険被保険者および被扶養者(40歳～74歳)

(3) 特定健康診査の実施期間及び実施場所

人間ドック 5月～8月 人間ドック委託医療機関

個別健診 7月～10月 大口町・扶桑町の委託医療機関

集団健診 平成29年1月22日(日) 大口町保健センター

*健康診査の実施主体は戸籍保険課

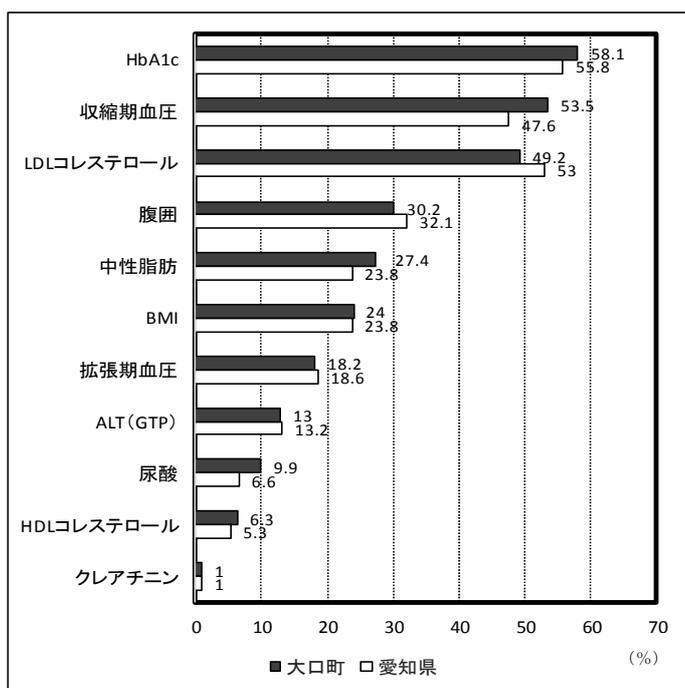
(4) 平成28年度特定健診受診者数

(H29.3.31現在 H28.7までの途中加入者および資格喪失による除外者を含む)

受診券発行者数	3,665人
特定健康診査受診者数	1,655人

特定健康診査受診率 45.2%

(5) 平成28年度特定健診受診者の有所見者状況と割合



※備考(有所見者)

HbA1c : 5.6%以上

収縮期血圧 : 130mmHg 以上

LDLコレステロール : 120mg/dℓ 以上

腹囲 : 男性 85cm 以上

女性 90cm 以上

中性脂肪 : 150mg/dℓ 以上

BMI : 25 以上

拡張期血圧 : 85mmHg 以上

ALT (GPT) : 31IU/ℓ 以上

尿酸 : 7.0mg/dℓ 以上

HDLコレステロール : 40mg/dℓ 未満

クレアチニン : 1.3mg/dℓ 以上

平成28年度国保データベース有所見者状況より

(6) 特定保健指導対象者の選定

特定健康診査結果から、内臓脂肪蓄積の程度とリスク要因の数に着目し、リスクの高さや年齢に応じ、動機付け支援・積極的支援のレベル別に対象者を選定します。

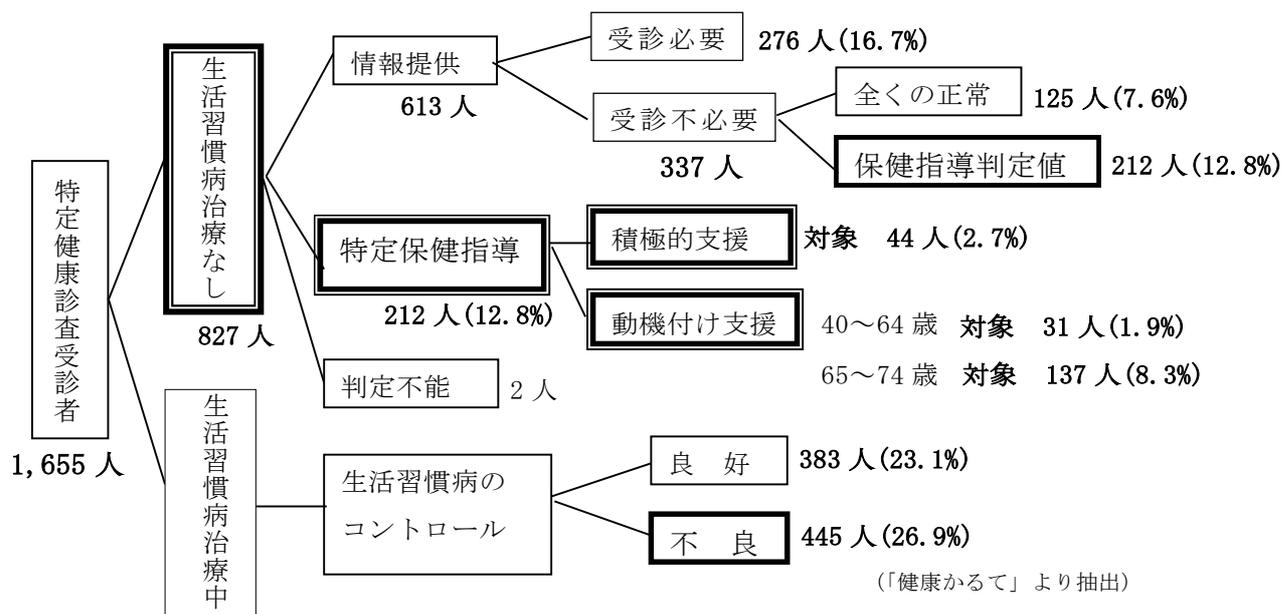
内臓脂肪の蓄積	(1) 腹囲 男性 85 cm以上 女性 90 cm以上 (2) ☆ 腹囲 男性 85 cm未満 女性 90 cm未満 かつ <u>BMI 25以上</u>	追加リスク	
		①血糖	☆空腹時血糖値 100mg/dℓ以上 または <u>HbA1c (NGSP値) 5.6%以上</u>
		②脂質	中性脂肪 150mg/dℓ以上 または HDLコレステロール 40mg/dℓ未満
		③血圧	収縮期血圧 130mmHg 以上 または 拡張期血圧 85mmHg 以上
		④質問票	☆喫煙歴あり

指導レベルのグループ分け

追加リスクの数	(1) の場合 (腹囲)	(2) の場合 (BMI)
3つ以上	積極的支援レベル	積極的支援レベル
2つ		動機付け支援レベル
1つ	動機付け支援レベル	
0	情報提供レベル	情報提供レベル

- (注) 1 喫煙歴については、①～③のリスクが1つ以上の場合のみカウントする。
 2 前期高齢者(65歳～74歳)は、積極的支援の対象となった場合でも動機付け支援とする。
 3 服薬中の人は医療保険者による特定保健指導の対象としない。

特定保健指導階層化



(7) 特定保健指導 利用状況《28年度》(資格喪失による除外者を含む H29.3 現在)

特定保健指導利用人数

	対象者	利用者	利用率
動機づけ 40～64歳	31人	8人	25.8%
動機づけ 65歳以上	137人	30人	21.9%
積極的	44人	8人	18.1%
全体	212人	46人	21.7%

利用者 男女別

男性	女性
30人	16人
65.2%	34.8%

保健指導利用率

21.7%

平成28年度 特定保健指導 実施状況

	初回支援 集団または個別	継続支援 個別	運動支援(※1) 個別支援	継続支援 個別	中間評価 (積極的支援のみ)	継続支援 電話	6ヶ月評価 集団または個別
1クール			【開催日】 H28.10/21 12/19 H29. 2/14 3/21 4/21 【参加者数】: 計26名 特定保健指導参加者 : 24人 重症化対策対象者(※2) : 2人 ②個別(ライフコーダ支援) 進化型歩数計(ライフコーダ) による身体活動の支援 【参加者】 3名				
2クール	H28年11月実施 個別 6人	H28年12月		H29年1月	H29年2月 該当なし	H29年4月	H29年5月実施 実施予定
3クール	H29年1月実施 集団 5人 個別 4人	H29年2月		H29年3月	H29年4月実施	H29年6月 実施予定	H29年7月 実施予定
4クール	H29年2月実施 集団 11人 個別 11人	H29年3月		H29年4月	H29年5月 実施予定	H29年7月 実施予定	H29年8月 実施予定

※1 運動支援: H28年度より、参加者の身体状況に合わせたより個別性の高い支援を行うため、予約制の個別支援を実施した。

※2 重症化対策対象者: H28年度実施の大口町糖尿病等生活習慣病重症化予防事業の対象者

* 江南厚生病院へ特定保健指導委託: 7月～3月(国民健康保険人間ドック実施者のみ)

H28年度利用者人数 10人/31人中(利用率 32.3%)

(8) 平成27年度 特定健診・特定保健指導 法定報告

資料: 平成27年度 市町村国保特定健診・保健指導実施状況概況報告書

(単位: %)

	全国	愛知県	大口町
特定健康診査 受診率	36.3	38.9	48.1
特定保健指導 終了率	25.1	16.0	21.7
(積極的支援) 終了率	15.8	9.3	31.3
(動機付け支援) 終了率	28.3	18.0	19.6
内臓脂肪症候群該当者の減少率	22.2	—	23.3
内臓脂肪症候群該当者	16.9	18.6	17.9
内臓脂肪症候群予備群	10.6	10.1	9.7
高血圧服薬治療中	34.0	35.4	35.5
脂質異常症服薬治療中	23.7	27.0	27.2
糖尿病服薬治療中	7.4	8.6	9.1

(9) 平成 27 年度特定保健指導実施者の状況と支援の内訳

《終了者の状況》

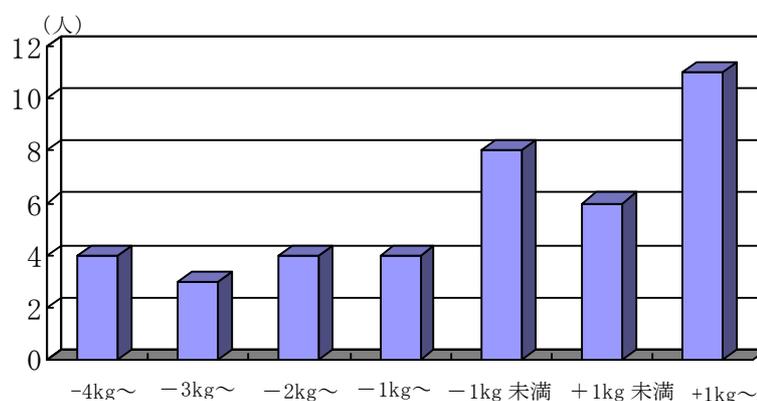
		対象者	参加者	参加率	終了者	対参加者 終了率	対対象者 終了率
積極的支援		37 人	12 人	32.4%	11 人	91.7%	29.7%
動機づけ支援	40～64 歳	29 人	7 人	24.1%	7 人	100.0%	24.1%
	65～74 歳	130 人	22 人	16.9%	22 人	100.0%	16.9%
	合計	196 人	41 人	20.9%	40 人	97.6%	20.4%

(10) 平成 27 年度特定保健指導利用者の変化

《体重、腹囲の変化》

	最大	最小	中央値
体重の変化	-5.2kg	+6.2kg	-0.1kg
腹囲の変化	-8.0 cm	+9.9 cm	±0

特定保健指導利用者の体重変化別人数



《生活習慣の変化》 評価対象者：積極的支援 11 名、動機づけ支援 29 名

		改善	変化なし	悪化
食生活	積極的支援	8 人	3 人	—
	動機づけ支援	16 人	13 人	—
身体活動	積極的支援	4 人	7 人	—
	動機づけ支援	15 人	4 人	—

(11) 糖尿病等生活習慣病重症化予防事業 《平成 28 年度》

特定健康診査の結果から、重症化するリスクの高い者に対し、保健指導および医療機関への受診勧奨を行うことにより、糖尿病や高血圧等の生活習慣病の重症化および合併症の発症を予防する。

また、大口町において有所見者が多く、医療費の上位を占めている糖尿病についての意識啓発と発症予防を図るため、「血糖値が気になる方の健康講座（全 2 回コース）」を実施した。（健康講座の実施主体は健康生きがい課）

《重症化予防のための訪問（からだイキイキ訪問）》

- 対象者 ①血糖：糖尿病未治療で、HbA1c6.5%以上または、糖尿病治療中で、HbA1c8.0%以上に該当するもの
- ②血圧：高血圧未治療で、収縮期血圧160mmHg以上または拡張期血圧100mmHg以上に該当するもの
- ③腎機能：eGFR50未満（70歳以上はeGFR40未満）でHbA1c7.0%以上または、尿たんぱく（2+）以上に該当するもの
- ※上記のうち、検査値、年齢、リスクの重なり等を踏まえて優先順位を検討し、優先度の高い対象者から順に訪問。

○実施状況（訪問件数等）

	対象者数	実施者数		状況確認ができた人数
		訪問・来所	電話	
HbA1c6.5～6.9% 服薬なし	44人	30人	10人	36人（79.5%）
HbA1c7.0%～ 服薬なし	13人	8人	3人	10人（76.9%）
HbA1c8.0%～ 服薬中	11人	8人	2人	9人（81.8%）
Ⅱ度以上高血圧	59人	33人	14人	41人（69.5%）
腎機能 e-GFR	2人	2人	0	2人（100%）
腎機能 尿たんぱく（2+）	28人	17人	8人	21人（75.0%）
合計	157人	98人	37人	119人（75.8%）

※訪問時、不在だった場合は、アンケートによる状況調査を行い、健診結果や病態、生活習慣に関するリーフレット等の資料を投函、啓発に努めた。

○訪問・電話支援等実施者の状況（状況確認ができた方119名 重複回答あり）

	HbA1c 6.5～6.9	HbA1c 7.0以上	HbA1c8.0 服薬中	高血圧	e-GFR	尿たんぱく	計
生活習慣改善指導実施	15人	3人	8人	10人	1人	4人	41人
受診勧奨	2人	2人	—	0	0	4人	8人
医療機関管理中	10人	6人	0	15人	1人	10人	42人
その他							
・すでに生活習慣改善中 のため情報提供	5人	0	1人	4人	0	0	10人
・生活習慣改善指導を 辞退	4人	1人	0	5人	0	1人	11人
・特定保健指導への参加	2人	1人	—	2人	0	1人	6人
・家庭血圧測定にて様子 観察	—	—	—	10人	—	—	10人
・保健センターにて尿再 検査の実施	—	—	—	—	—	2人	2人

4 がん検診

(1) 目的

がんを早期発見し、適切な治療につなげることによりがんの死亡率を減少させる。

(2) 検診の内容

種類	検査項目	委託機関 (検診機関数・実施期間)	対象者	自己負担金
胃がん検診	胃部 X 線撮影	愛知県健康づくり振興事業団 (1 会場・午前 3 日間) 尾北医師会 (町内 6 医療機関)	20 歳以上	集団 1,000 円 個別 2,000 円
	胃部内視鏡検査	尾北医師会 (町内 5 医療機関)	40 歳以上	個別 2,000 円
大腸がん検診	便潜血反応	名古屋公衆医学研究所 尾北医師会 (町内 8 医療機関)	20 歳以上	集団 400 円 個別 500 円
子宮頸がん検診	視診、細胞診	愛知県健康づくり振興事業団 (1 会場・午後 4 日間) 尾北医師会 (町外 3 医療機関)	和暦偶数年 生まれの 20 歳以上	集団 800 円 個別 1,000 円
乳がん検診	乳房 X 線検査	愛知県健康づくり振興事業団 (1 会場・午前午後 4 日間) 町内 1、町外 3 医療機関	和暦偶数年 生まれの 35 歳以上	集団 1,000 円 個別 1,500 円
	乳房超音波検査	名古屋公衆医学研究所 (1 会場・午前 3 日間) 町内 3、町外 3 医療機関	20 歳以上	集団 700 円 個別 1,500 円
肺がん検診	胸部 X 線検査 (喀痰検査)	名古屋公衆医学研究所 (11 会場・4 日間) 尾北医師会 (町内 8 医療機関)	20 歳以上 (50 歳以上で喫煙 指数 600 以上)	集団 無 料 個別 500 円 (集団 300 円、個別 1000 円)
前立腺がん検診	P S A 検査	愛知県健康づくり振興事業団 (1 会場午前・午後各 1 回)	50 歳以上	集団 300 円

(3) 無料クーポン券事業対象者

対 象 者	検診の種類							
	男性 (人)	女性 (人)	胃 が ん	大 腸 が ん	子 宮 頸 が ん	乳 が ん	肺 が ん	前 立 腺 が ん
20 歳 平成 7 年 4 月 2 日～平成 8 年 4 月 1 日生	/	115	/	/	女性	/	/	/
40 歳 昭和 50 年 4 月 2 日～昭和 51 年 4 月 1 日生	195	177	●	●	女性	女性	●	/
45 歳 昭和 45 年 4 月 2 日～昭和 46 年 4 月 1 日生	174	184	●	●	女性	女性	●	/
50 歳 昭和 40 年 4 月 2 日～昭和 41 年 4 月 1 日生	148	166	●	●	女性	女性	●	男性
55 歳 昭和 35 年 4 月 2 日～昭和 36 年 4 月 1 日生	109	98	●	●	女性	女性	●	男性
60 歳 昭和 30 年 4 月 2 日～昭和 31 年 4 月 1 日生	115	117	●	●	女性	女性	●	男性

(4) がん検診実施状況

ア 胃がん検診 (X線検査)

* () は40歳未満を含む (人)

年度	健康増進事業対象者数	受診者数		受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果			
		集団	医療機関						異常なし	がん	その他の疾患	
26	4,725	338 (359)	194 (212)	144 (147)	7.2	28 (28)	8.3 (7.8)	24 (24)	85.7 (85.7)	5 (5)	0 (0)	19 (19)
27	5,421	312 (345)	194 (222)	118 (123)	5.8	20 (21)	6.4 (6.1)	16 (17)	80.0 (81.0)	0 (1)	0 (0)	16 (16)
28	5,421	277 (320)	157 (186)	120 (134)	5.1	20 (22)	7.2 (6.9)	16 (17)	80.0 (77.3)	0 (1)	1 (1)	15 (15)

*健康増進事業対象者は40歳以上

イ 胃がん検診 (内視鏡検査)

* () は50歳未満を含む (人)

年度	健康増進事業対象者数	受診者数		受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果			
		集団	医療機関						異常なし	がん	その他の疾患	
26	4,725	546	/	546	11.6	6	1.1	6	100	0	0	6
27	5,421	565	/	565	10.4	2	0.4	2	100	0	1	1
28	4,893	441 (561)	/	441 (561)	9.0	179 (215)	40.6 (38.3)	179 (215)	100 (100)	0 (0)	1 (1)	178 (214)

*H28年度から健康増進事業対象となる。健康増進事業の対象者は50歳以上

*H26、27年度対象者は40歳以上の数

ウ 大腸がん検診

* () は40歳未満を含む (人)

年度	健康増進事業対象者数	受診者数		受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果			
		集団	医療機関						異常なし	がん	その他の疾患	
26	4,725	1,202 (1,257)	465 (511)	737 (746)	25.4	112 (115)	9.3 (9.1)	96 (98)	85.7 (85.2)	46 (48)	4 (4)	46 (46)
27	5,421	1,219 (1,281)	439 (489)	780 (792)	22.5	100 (104)	8.2 (8.1)	89 (91)	89.0 (87.5)	27 (28)	3 (3)	59 (60)
28	5,421	1,116 (1,184)	366 (417)	750 (767)	20.6	87 (89)	7.8 (7.5)	72 (73)	82.8 (82.0)	25 (25)	0 (0)	47 (48)

*健康増進事業対象者は40歳以上

エ 子宮頸がん検診

* () は妊婦健診による子宮がん検診受診者再掲 (人)

年度	健康増進事業 対象者数	受診者数		受診率 %	要精 検者 数	要精 検率 %	精 検 受 診 者 数	精 検 受 診 率 %	精検結果					
		集 団	医 療 機 関						異 常 な し	上 皮 内 病 変	子 宮 頸 が ん	子 宮 体 が ん	そ の 他 の が ん	そ の 他 の 疾 患
26	4,301	655 (223)	208 (223)	15.2	11 (3)	1.68 (1.3)	8 (2)	72.7 (66.7)	4 (1)	3 (1)	0	0	0	1
27	4,469	664 (212)	227 (212)	14.9	8 (4)	1.2 (1.9)	5 (1)	62.5 (50.0)	4 (1)	0	0	0	0	1
28	4,469	651 (220)	178 (220)	14.6	11 (4)	1.69 (1.82)	6 (1)	54.5 (25.0)	4 (1)	0	0	0	0	2

*健康増進事業対象者は20歳以上

*妊婦健診による子宮がん検診は20歳未満を含む (H26 : 3人、H27 : 3人、H28 : 1人)

オ 乳がん検診 (視触診+マンモグラフィ検査) * () は40歳未満を含む (人)

年度	健康増進事業 対象者数	受診者数		受診率 %	要精 検者 数	要精 検率 %	精 検 受 診 者 数	精 検 受 診 率 %	精検結果		
		集 団	医 療 機 関						異 常 な し	が ん	そ の 他 の 疾 患
26	3,112	416 (442)	214 (232)	13.4	30 (31)	7.2 (7.0)	26 (27)	86.7 (87.1)	16 (16)	0 (0)	10 (11)
27	3,453	420 (455)	212 (236)	12.2	35 (40)	8.3 (8.8)	32 (36)	91.4 (90.0)	22 (25)	0 (0)	10 (11)
28	3,453	449 (491)	181 (211)	13.0	48 (50)	10.7 (10.2)	40 (42)	83.3 (84.0)	25 (25)	0 (0)	15 (17)

*健康増進事業対象者は40歳以上

カ 乳がん検診 (視触診+エコー検査) * () は40歳未満を含む (人)

年度	対 象 者 数	受診者数		受診率 %	要精 検者 数	要精 検率 %	精 検 受 診 者 数	精 検 受 診 率 %	精検結果		
		集 団	医 療 機 関						異 常 な し	が ん	そ の 他 の 疾 患
26	/	139 (195)	49 (94)	/	7 (12)	5.0 (6.2)	6 (9)	85.7 (75.0)	3 (3)	0 (0)	3 (6)
27	/	188 (254)	59 (101)	/	14 (20)	7.4 (7.9)	10 (15)	71.4 (75.0)	4 (8)	0 (0)	6 (7)
28	/	162 (248)	41 (88)	/	11 (15)	6.8 (6.0)	11 (15)	100 (100)	5 (8)	0 (0)	6 (7)

*健康増進事業対象外

キ 肺がん検診（胸部X線検査）

*（ ）は40歳未満を含む（人）

年度	健康増進事業対象者数	受診者数		受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果			
		集団	医療機関						異常なし	がん	その他の疾患	診断保留
26	4,725	1,425 (1,430)	648 (782)	30.2	20 (20)	1.4 (1.4)	19 (19)	95.0 (95.0)	10 (10)	1 (1)	5 (5)	3 (3)
27	5,421	1,312 (1,323)	535 (788)	24.2	9 (9)	0.69 (0.68)	9 (9)	100 (100)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	3 (3)
28	5,421	1,213 (1,230)	439 (791)	22.4	9 (9)	0.74 (0.73)	8 (8)	88.9 (88.9)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	1 (1)

*健康増進事業対象者は40歳以上

*要精検者は胸部X線 E判定（肺がんの疑い）の数

*平成27年度受診者のうちD判定で精密検査の結果肺がんが発見された者 1人

ク 肺がん検診（かくたん検査）

（人）

年度	健康増進事業対象者数	受診者数		受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果			
		集団	医療機関						異常なし	がん	その他の疾患	診断保留
26	218	49	18	22.5	0							
27	182	36	10	19.8	0							
28	177	31	9	17.5	0							

*健康増進事業対象者は50歳以上のうち喫煙指数600以上の者

平成28年度 胸部X線写真読影D判定内訳

（人）

年齢	受診者数	検査判定区分				D判定者の精検結果					未受診・未把握
		D1	D2	D3	D4	異常なし	結核	がん	その他の疾患	診断保留	
40歳未満	17	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
40～44歳	90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45～49歳	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50～54歳	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55～59歳	59	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
60～64歳	124	-	1	-	3	1	-	-	1	-	2
65～69歳	209	-	1	-	1	-	-	-	1	1	-
70歳以上	598	2	4	3	7	5	-	-	7	2	2
合計	1,230	2	6	3	13	6	0	0	9	3	6

【胸部X線検査判定区分】

- A：読影不能 B：異常なし C：異常を認めるが精査を必要としない
 D1：治療を要する結核を疑う D2：肺炎、気胸など治療を要する状態を疑う
 D3：心大血管異常で治療を要する状態を疑う D4：縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍など治療を要する状態を疑う
 E：肺がんの疑い

ケ 前立腺がん検診

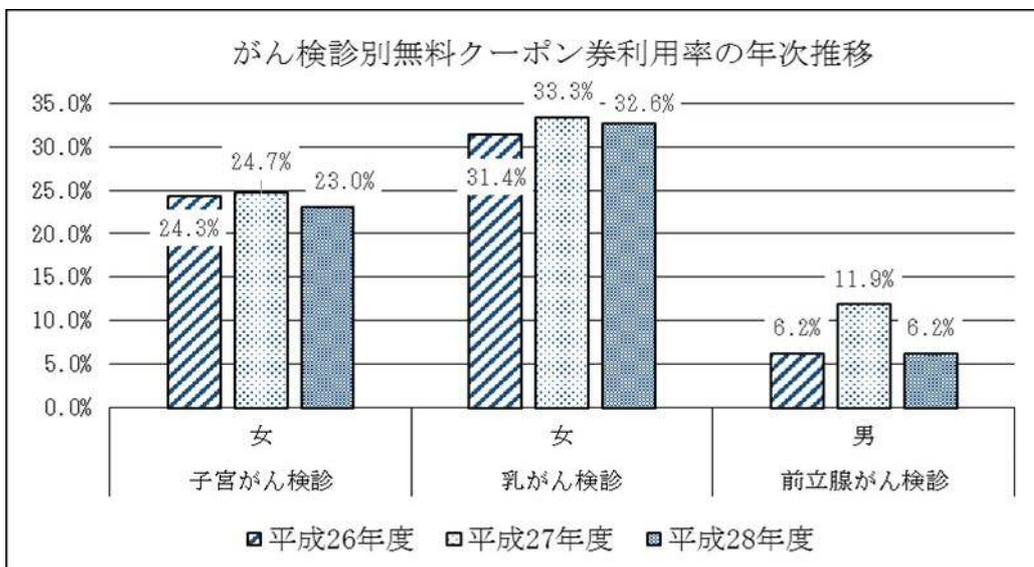
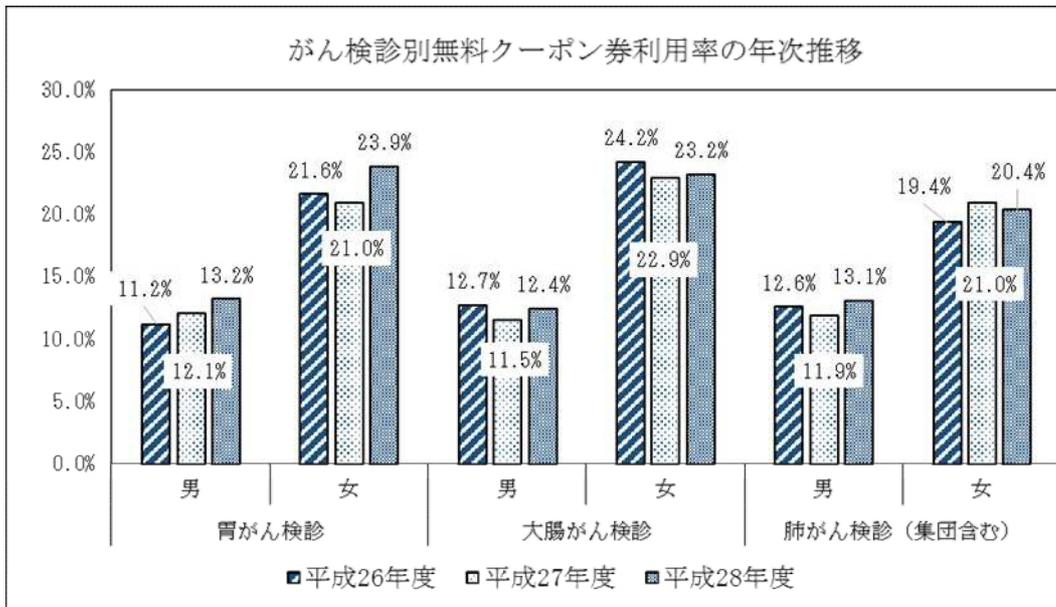
(人)

年度	対象者数	受診者数	受診率 %	要精検者数	要精検率 %	精検受診者数	精検受診率 %	精検結果		
								異常なし	がん	その他の疾患
26	1,532	172	11.2	9	5.2	7	77.8	5	0	2
27	1,855	182	9.8	12	6.6	10	83.3	3	1	6
28	1,855	148	8.0	9	6.1	6	66.7	1	3	2

*健康増進事業対象外

コ 無料クーポン事業

一定の年齢の者にクーポンを送付して受診を勧奨することで、検診受診の動機付けを行いがん検診の受診を促進し、がんの早期発見につなげ、がんによる死亡者の減少を図ることを目的として実施した。



年代別がん検診無料クーポン券利用率

年度	対象者数 (人)		受診率 %										がん 発見 数
			胃がん検診		大腸がん検診		肺がん検診		子宮頸 がん検診	乳がん 検診	前立腺 がん検診		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性					
26	20歳	-	115	-	-	-	-	-	-	10.4	-	-	-
	40歳	220	189	11.8	23.3	13.6	25.9	13.6	22.2	31.2	37.0	-	-
	45歳	117	229	12.0	17.5	17.1	19.2	16.2	15.7	25.8	27.5	-	-
	50歳	163	116	10.4	25.0	11.7	24.1	11.7	18.1	26.7	31.9	3.7	-
	55歳	111	99	9.0	17.2	8.1	25.3	7.2	19.2	20.2	24.2	5.4	1
	60歳	96	116	12.5	27.6	12.5	30.2	13.5	23.3	25.0	35.3	11.5	-
	40~60歳 合計	707	749	11.2	21.6	12.7	24.2	12.6	19.4	24.3	31.4	6.2	1
27	20歳	-	116	-	-	-	-	-	-	6.9	-	-	-
	40歳	191	186	7.3	21.5	6.8	25.8	7.3	24.2	29.0	36.0	-	-
	45歳	168	186	7.7	22.0	6.5	19.9	8.3	18.8	28.0	33.9	-	-
	50歳	159	148	11.3	19.6	11.9	23.0	12.6	20.3	29.7	38.5	5.0	-
	55歳	100	114	19.0	17.5	17.0	20.2	17.0	19.3	25.4	31.6	16.0	-
	60歳	120	134	20.8	23.1	20.8	25.4	19.2	21.6	23.1	24.6	17.5	-
	40~60歳 合計	738	768	12.1	21.0	11.5	22.9	11.9	21.0	24.7	33.3	11.9	0
28	20歳	-	115	-	-	-	-	-	-	11.3	-	-	-
	40歳	195	177	10.8	27.7	9.7	28.8	10.8	26.0	27.7	32.2	-	-
	45歳	174	184	16.7	14.7	16.7	16.8	16.7	13.6	26.1	31.0	-	-
	50歳	148	166	8.1	21.7	7.4	19.3	8.1	16.9	22.3	32.5	4.7	-
	55歳	109	98	11.9	27.6	11.9	22.4	10.1	21.4	25.5	30.6	8.3	-
	60歳	115	117	20.0	32.5	17.4	30.8	20.9	26.5	21.4	37.6	6.1	-
	40~60歳 合計	741	742	13.2	23.9	12.4	23.2	13.1	20.4	23.0	32.6	6.2	0

*肺がん検診は集団検診受診者も含む

(集団検診受診者 H26年度：34人、H27年度：37人、H28年度：23人)

5 わかば健康診査

(1) 目的

すこやかで豊かな生涯を送るために、健康診査により生活習慣病を早期発見するとともに、若い年代から自分の健康状態を知ることによって生活習慣を見直す動機づけを図る。

(2) 対象者

20・30歳代のうち会社・学校等で健康診査を受ける機会のない者（定員100人）

(3) 実施日

平成29年1月22日（日） 午前9時～11時30分

(4) 内容

身体計測（腹囲・身長・体重・BMI）、尿検査（尿糖・尿蛋白）、血圧測定、血液検査（脂質検査・貧血検査・肝機能検査・糖代謝検査・腎機能検査）、医師診察

(5) 受診状況

（人）

年齢	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	合計
男性	0	2	3	4	9
女性	1	12	32	31	76
					85

(6) 検査結果

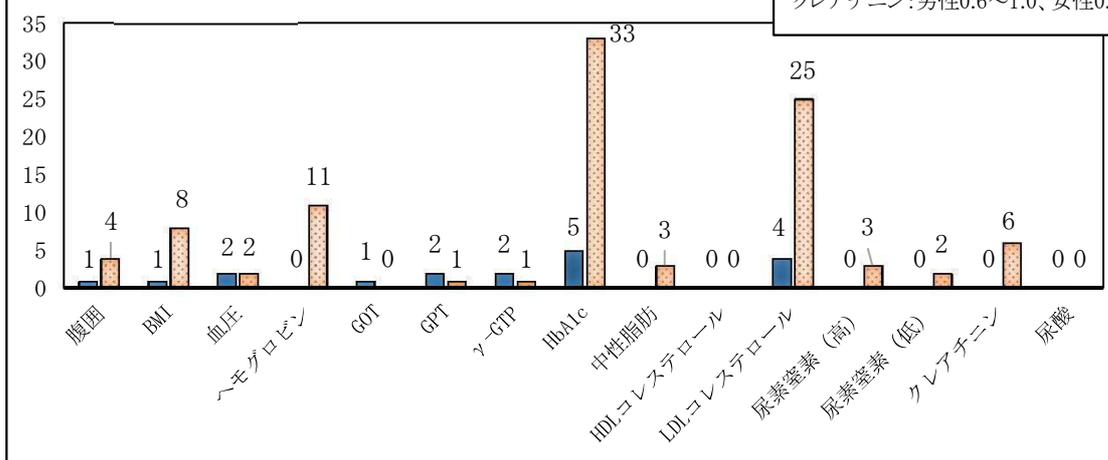
ア 総合判定

判定	A 異常なし	B ほぼ異常なし	C 経過観察	D 要再検査	E 要精密検査	F 要治療
男性	20歳代	1	0	0	0	0
	30歳代	1	0	3	0	3
女性	20歳代	2	4	3	0	4
	30歳代	7	26	22	1	6
合計	11	30	28	1	11	4
割合	12.9%	35.3%	32.9%	1.2%	12.9%	4.7%

イ 検査項目別結果

平成28年度わかば健診検査項目別異常者数

（人） ■男性 ■女性



<基準値>

腹囲：男性85cm未満、女性90cm未満
 BMI：25未満
 血圧：129以下/84以下
 ヘモグロビン：男性13.0～18.0、女性12.0～16.0
 GOT：30以下、GPT：30以下、γ-GTP50以下
 HbA1c：4.3～5.5
 中性脂肪：150未満
 HDLコレステロール：40以上、LDLコレステロール：120未満
 尿酸窒素：8.0～20.0、尿酸：7.0以下
 クレアチニン：男性0.6～1.0、女性0.4～0.7

6 肝炎ウイルス検診

(1) 目的

肝炎対策の一環として、肝炎ウイルスに関する正しい知識を普及させるとともに、肝炎ウイルス検診の受診促進を図り、もって町民が自身の肝炎ウイルス感染の状況を認識し、必要に応じて保健指導等を受け医療機関で受診することにより、肝炎による健康障害の回避、症状の軽減または進行の遅延を図る。

(2) 対象者

- ・平成 28 年度において満 40 歳となる者
- ・平成 28 年度に満 41 歳以上となる者であって、過去に当該肝炎ウイルス検診に相当する検診を受けたことがなく本検診の受診を希望する者

(3) 実施場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 実施期間

平成 28 年 7 月 1 日～10 月 31 日（ただし、大口町の胃がん検診（胃内視鏡検査）を受ける場合は大口町内の医療機関に限りがん検診実施期間中も可能。）

(5) 内容

問診、B 型肝炎ウイルス検査、C 型肝炎ウイルス検査

(6) 実施状況

(人)

項目 区分	受診者	HB s 抗原検査		C 型肝炎ウイルス検査	
		陰性	陽性	現在 C 型肝炎ウイルスに感染していない可能性が極めて高い	現在 C 型肝炎ウイルスに感染している可能性が極めて高い
40 歳	36	36	0	36	0
その他の年齢	99	99	0	99	0
計	135	135	0	135	0

7 ヘリコバクター・ピロリ抗体及びペプシノゲン検査

(1) 目的

ヘリコバクター・ピロリ感染の有無とペプシノゲン判定による胃粘膜の萎縮度を調べ、胃がんや胃潰瘍、慢性萎縮性胃炎などの胃疾患に罹るリスクを分類することで、必要な検査や治療につなげ胃がんの予防を図る。

(2) 対象

40歳以上の者

*ただし、下記に該当するものは除く。

- ・勤務先等で検査を受ける機会のある者
- ・過去に大口町が実施する同検査を受けたことがある者
- ・ピロリ菌除菌治療を受けたことがある者
- ・食道・胃・十二指腸に関する疾患で治療中または手術歴のある者
- ・明らかな上部消化器症状があり胃や十二指腸の疾患が強く疑われる者
- ・プロトンポンプ阻害薬を服用中もしくは2か月以内に服用した者
- ・腎不全及び腎機能障害の者

(3) 実施場所

大口町内委託医療機関

(4) 実施期間

平成28年7月1日～10月31日

(5) 内容

問診、血清ペプシノゲン検査、血清ヘリコバクター・ピロリ抗体検査

(6) 受診者数

(人)

受診者数	A群	B群	C1群	C2群
40	29	5	6	0

A 群：健康な胃粘膜で、胃疾患の危険度は低い。

B 群：消化性潰瘍など胃疾患の危険がある。(胃がんが発生することもある。)

C1群：胃がん、胃ポリープなど胃疾患の高危険群。

C2群：胃がん、胃ポリープなど胃疾患の、より高危険群。

8 骨密度測定

(1) 目的

骨粗鬆症は寝たきりの要因となる骨折の基礎疾患となるため、早期に骨量減少者を発見し骨粗鬆症を予防する。

(2) 対象者

20歳以上の者

(3) 実施日

6月30日（木）、9月14日（水） 午前9時30分～11時、午後1時30分～3時

(4) 内容

踵骨での超音波伝導法による骨密度測定

愛知県健康づくり振興事業団派遣スタッフによる結果説明

管理栄養士による個別指導

（検査結果が要指導または要精検の初回受診者を指導対象とした）

(5) 受診状況

(人)

判定	30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		合計		
	受診数	指導数	受診数	指導数	受診数	指導数	受診数	指導数	受診数	指導数	受診数	指導数	
男性	異常なし	1	0	0	0	0	1	0	7	0	9	0	
	要指導	0	0	0	0	0	1	1	4	1	5	2	
	要精検	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	
女性	異常なし	3	0	7	0	10	0	6	0	7	0	33	0
	要観察	6	0	9	0	2	0	0	0	0	0	17	0
	要指導	4	1	7	4	8	3	16	4	10	1	45	13
	要精検	0	0	0	0	5	5	10	6	14	6	29	17
合計	14	1	23	4	25	8	35	11	43	8	140	32	

9 健康教育

生活習慣病の予防その他の健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、健康の保持増進を図ることを目的として健康教育を実施した。

(1) 病態別健康教育（糖尿病予防教室）

ア 目的

血糖値の改善または悪化の防止を図るため、参加者が糖尿病予防のための適切な生活習慣を身につけ、自主的に継続して健康管理ができるように実施した。

イ 周知方法

平成 27 年度「血糖値が気になる方の健康講座」受講者（平成 27 年度特定健康診査の結果でHbA1c 値が 5.6%以上の者）に個別通知をし参加者を募集した。

ウ 実施場所

健康文化センター 多目的室

エ 実施状況

実施回数：1クール2回

日 程	内 容	従事者	参加人数 (人)		
			40～64 歳	65～74 歳	75 歳以上
第 1 回 11 月 29 日 (火) 午前 9 時 30 分～ 11 時 30 分	「糖尿病予防のための 食事について」 ・食生活の 5 つのポイント ・食事記録の振り返り ・行動目標の設定 ・活動量計貸出と生活記録 表配布	健康生きがい課 管理栄養士・保健師 戸籍保険課 保健師	4	16	3
第 2 回 12 月 16 日 (金) 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分	「糖尿病予防のための 運動について」 ・糖尿病の正しい理解と 予防のための生活のコツ ・運動の実技 ・活動量計の結果説明	あいち健康プラザ 健康運動指導士 健康生きがい課 保健師・管理栄養士 戸籍保険課 保健師	3	13	4
合 計			7 (5)	29 (17)	7 (4)

* () は実人数

(2) 一般健康教育

ア 女性のための運動教室「スタイルアップ教室」

(ア) 目的

健康増進のための運動に関する知識を普及し、体を動かすことを通して運動する機会が少なくなっている女性が運動に関心を持ち、習慣的に運動する動機付けのために実施した。

(イ) 対象者

20～40 歳代の女性

(ウ) 周知方法

わかば健診結果通知書に案内チラシを同封し、また BCG 接種時の体力測定実施者や乳幼児健診受診者の保護者にチラシを配布し参加者を募集した。

(エ) 実施場所

保健センター プレイルーム

(オ) 実施状況

実施回数：1クール3回

日 程	内 容	従事者	参加者人数
第1回 3月8日(水) 午前9時30分～ 11時30分	体力チェック 姿勢チェック 筋力トレーニング ストレッチ体操	トレーニングセンター 健康運動指導士 スポーツトレーナー(第2回のみ)	14人 (託児6人)
第2回 3月15日(水) 午前10時～ 11時30分	エアロビクス 筋力トレーニング ストレッチ体操	健康生きがい課 保健師 託児ボランティアグループ こどもの森	13人 (託児9人)
第3回 3月29日(水) 午前9時30分～ 11時30分	体力チェック 筋力トレーニング ストレッチ体操		12人 (託児9人)
合 計			39(15)人

* () は実人数

教室終了後は、継続して運動に取り組めるよう週1回の頻度で保健センターに集まり運動することを参加者に呼びかけ、運動の自主グループ化を図った。自主グループ活動は平成29年4月7日(金)から開始し、毎週金曜日の午前10時から11時30分まで参加者が持参した市販の媒体(DVD)を使用して、親子で気軽に集まり運動している。教室参加者15人のうち6人が子どもを連れて集まっている。

イ 依頼による健康教育

実施日時	内 容	対象者	依頼機関	参加者数
5月17日(火) 午前11時～11時30分	子育て講演会 「よい睡眠でからだも こころも健康に」	南保育園児の保護者	福祉こども課 保育所	102人
5月18日(水) 午前11時～11時30分		西保育園児の保護者		70人
5月24日(火) 午前11時～11時30分		北保育園児の保護者		50人
5月19日(木) 正午～午後12時30分	保健師さんの健康ワンポイントレッスン 「体力測定について」	親子ふれあい広場に 参加している母親	特定非営利活動法人 子どもと文化 の森	2人
6月16日(木) 正午～午後12時30分	保健師さんの健康ワンポイントレッスン 「むし歯予防について」			7人
10月20日(木) 正午～午後12時30分	保健師さんの健康ワンポイントレッスン 「生活習慣病予防に ついて」			6人
11月10日(木) 正午～午後12時30分	保健師さんの健康ワンポイントレッスン 「感染症予防について」			7人
7月4日(月) 午前9時～ 午後1時30分	出前対話 「夏野菜を使って 低栄養予防」	老人クラブ女性部	老人クラブ	30人
7月15日(金) 10:30～正午 午前11時～11時30分	出前対話 「熱中症予防と 高血圧予防について」	さつきヶ丘老人クラブ 「ちとせ会」	さつきヶ丘 老人クラブ	40人
3月3日(金) 午前10時30分～ 11時30分	さくら大学講座 「いつまでも 美味しく食べよう」	さくら大学講座受講者 (60歳以上)	特定非営利活動法人 憩いの四季	46人
1月11日(水) 午前10時45分～ 11時30分	出前対話 「健康マイレージと 感染症予防について」	河北区ふれあいサロン 陽だまり参加者	河北区ふれあい サロン陽だまり	47人
10月28日(金) 午後1時45分～ 2時45分	就学時健診における保護者向け講演会 「子どもと保護者の 健康について」	北小学校就学を控えた 児童の保護者	北小学校	103人

ウ 自主グループ支援

実施日時	内 容	対象者	参加者数
5月31日(火) 午前9時30分～ 午後1時30分	栄養実習 「保育園と小中学校の 統一給食メニューの試作(大量調理)」	憩いの四季さくら屋 地域振興課	11人
8月19日(金) 午前9時～午後1時	健康クラブ笑顔21 男の料理教室 「もしもの時もしっかり栄養補給 ～備蓄の缶詰活用術～」(栄養実習)	健康クラブ笑顔21	18人
11月18日(金) 午前9時～午後1時	健康クラブ笑顔21 男の料理教室 「冬の血压管理 適塩の食事」	健康クラブ笑顔21	18人
1月26日(木) 午後1時30分～3時30分	ポールウォーキングリーダー研修会 「ツインポール体験」	ポールウォーキングリーダー 自主グループ活動参加者	14人 21人
3月1日(水) 午前10時～11時30分	元気づくりサポーター研修会 「2万人体力測定意見交換会」	元気づくりサポーター	7人

10 健康相談

心身の健康に関する個別の相談に応じ必要な指導及び助言を行い、家庭における健康管理を支援することを目的として実施した。

(1) 保健師・管理栄養士・歯科衛生士による健康相談

ア 歩く健康の集い(ウォーキング前の健康相談及び準備体操)

(ア) 実施日 毎月第2・4火曜日 午前9時～9時30分

(イ) 従事者 保健師

(ウ) 実施状況 実施回数22回

被指導者数(血压測定)

40～64歳	65～74歳	75～79歳	80歳以上	合計
1人 (延1)	10人 (延51)	5人 (延37)	5人 (延42)	実人数21人 延人数131人

イ 健康相談

(ア) 実施日 毎月第2・4金曜日 午前9時30分～11時30分

(イ) 従事者 保健師、管理栄養士、歯科衛生士

(ウ) 被指導者数

40歳未満	40～64歳	65～74歳	75歳以上	合計
1人	3人	2人	5人	11人

ウ 健康相談日以外の相談

(人)

従事者 (人)	保健師 (5)	管理栄養士 (2)	歯科衛生士 (1)	看護師 (1)
面接相談・被指導者数	14 (15)	16 (47)	1 (1)	9 (9) (うち予防接種に関する相談6)
電話相談・被指導者数	29	8 (18)	3	9 (うち予防接種に関する相談5)

*面接相談の()は被指導者延人数

(2) 重点健康相談

ア 歯周疾患相談

- (ア) 実施日 6月7日(火)、7月21日(木)、9月30日(金)
- (イ) 内容 ペリオスクリーンによる歯周病のスクリーニング、歯みがき指導
- (ウ) 従事者 歯科衛生士
- (エ) 被指導者数 26人(内訳は歯科保健活動「5 歯周病相談」に記載)

イ 骨粗鬆症相談

- (ア) 実施日 6月30日(木)、9月14日(水)
- (イ) 内容 骨密度測定結果に基づく保健指導
- (ウ) 従事者 管理栄養士
- (エ) 被指導者数 32人(内訳は成人保健活動「8 骨密度測定」に記載)

1.1 家庭訪問

療養上の保健指導が必要であると認められる者及びその家族に対して、保健師等が訪問して、対象者の家庭の健康に関する問題を総合的に把握し、必要な指導を行い、心身機能の低下の防止と健康の保持増進を図ることを目的として実施した。

(1) 糖尿病等重症化予防事業

糖尿病や高血圧等の生活習慣病の重症化及び合併症の発症を予防するため、国民健康保険の特定健康診査の結果から、重症化するリスクの高い者を選定し、訪問指導を実施した。

ア 従事者

戸籍保険課 保健師
健康生きがい課 保健師 管理栄養士

イ 実施状況(内訳は成人保健活動「3 特定健康診査・特定保健指導」に記載)

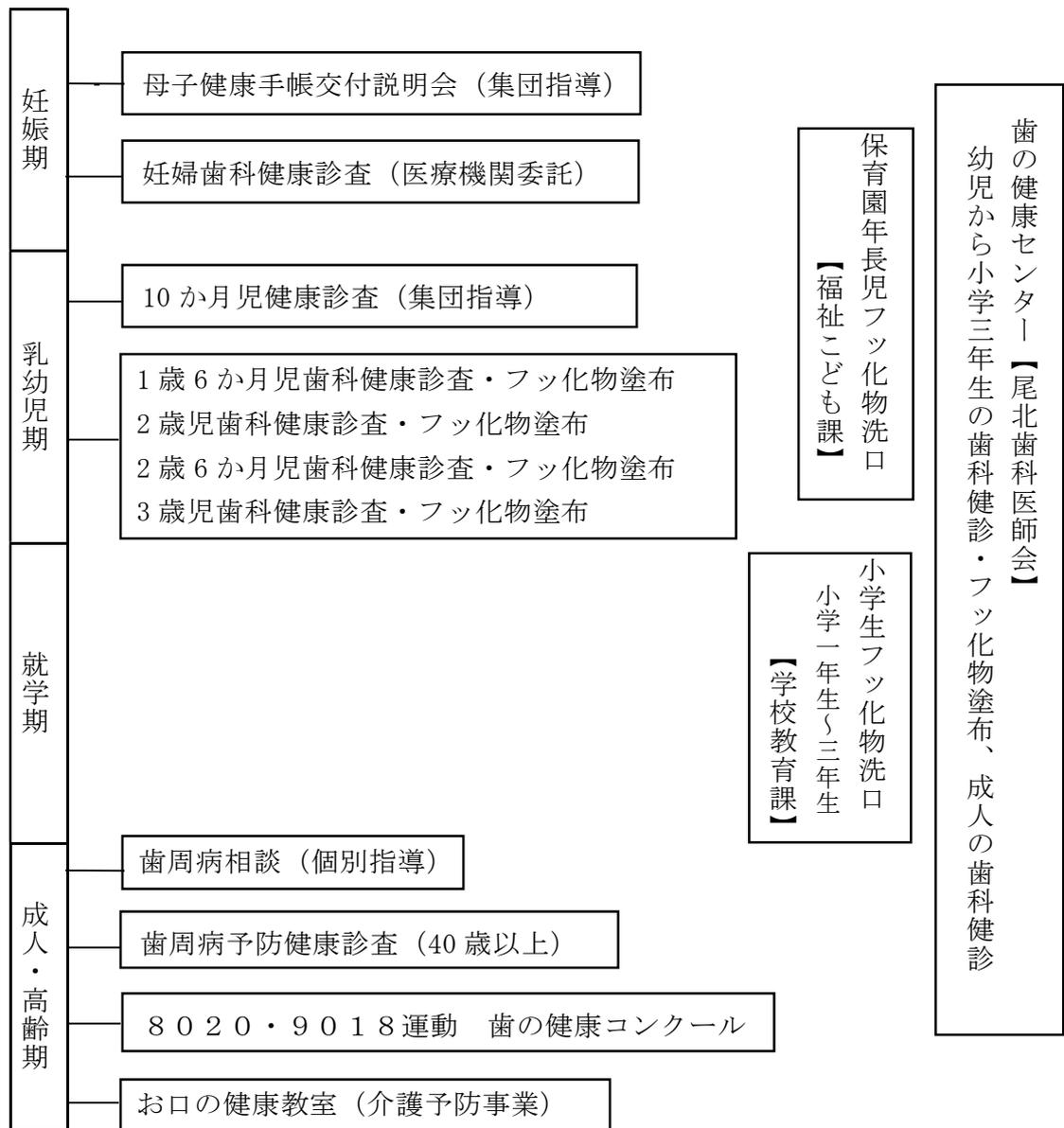
対象者数 157人(うち健康増進事業対象者 25人)
被指導実人数 53人(うち " 12人)
被指導延人数 54人(うち " 13人)
不在件数 14人

4 齒科保健活動

1 歯科保健事業の取り組み

健康おおぐち 21 第二次計画の歯の健康目標である「いつまでも自分の歯でおいしく食べよう」「いつまでも明るく歯を見せて笑おう」「口腔機能を維持しよう」の達成に向けて、妊娠期から高齢期までのライフステージに合わせた歯と口腔の健康づくり事業に取り組んだ。

歯科保健 管理体系

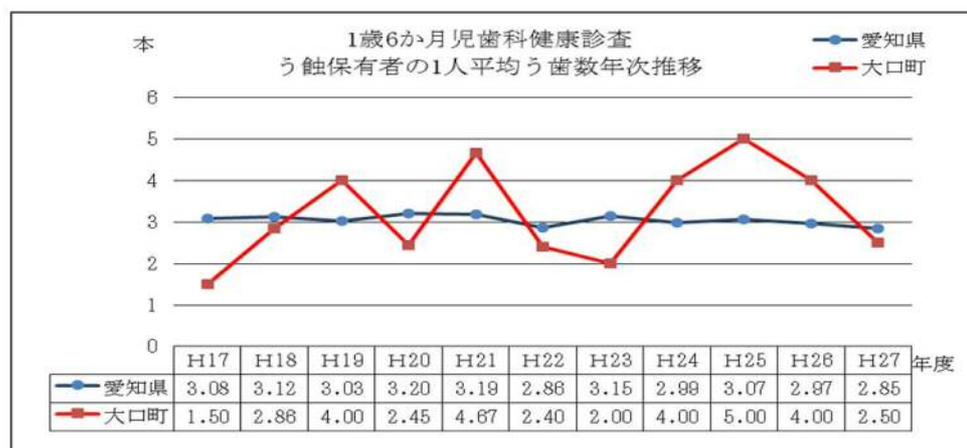
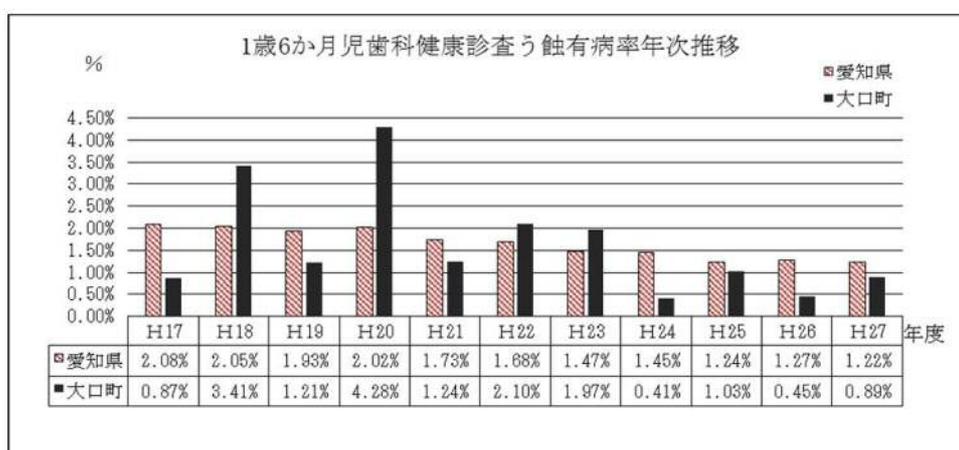


2 幼児歯科健康診査

生涯を通して歯・口腔の健康を保つため、成人の歯・口腔の基盤をかたちづくる時期である幼児期のう蝕を予防することを目的として、1歳6か月児、2歳児、2歳6か月児、3歳児を対象に歯科健康診査及びフッ化物塗布を実施した。フッ化物塗布時にはう蝕予防に関する知識、情報の提供等個別指導を行った。2歳児歯科健康診査では、集団指導を行い歯科健診前に染出しによる歯の汚れのチェックと歯みがき指導を実施した。

(1) 1歳6か月児歯科健康診査

年度	対象者数	受診者数	受診結果(人)					う蝕有病者数(人)	う蝕有病率(%)	う歯本数(本)		フッ化物塗布実施(人)	異常有(人)	歯列・咬合異常有(人)	軟組織異常有(人)	歯の形態・歯数異常有(人)	その他の異常有(人)
			01	02	A	B	C			総本数	1人あたり本数						
H26	222	222	79	142	1	0	0	1	0.45%	4	0.02	213	25	23	2		
H27	230	224	93	129	2	0	0	2	0.89%	5	0.02	215	25	24	6		
H28	259	261	106	154	1	0	0	1	0.38%	2	0.01	255	34	37	0		



(2) 2歳児歯科健康診査

年度	対象者数	受診者数	受診結果(人)					う蝕有病者数(人)	う蝕有病率(%)	う歯本数(本)		フッ化物塗布実施(人)	歯列・咬合異常有(人)	軟組織異常有(人)	歯の形態・歯数異常有(人)	その他の異常有(人)
			01	02	A	B	C			総本数	1人あたり本数					
H28	260	238	81	153	3	1	0	4	1.68%	15	0.06	225	42	31	7	0

*H28年度より2歳3か月児歯科健康診査は対象を拡大し2歳児及び2歳6か月児歯科健康診査として実施。

(3) 2歳3か月児歯科健康診査

年度	対象者数	受診者数	受診結果(人)					う蝕有病者数 (人)	う蝕有病率 (%)	う歯本数(本)		フッ化物塗布実施(人)	歯列・咬合異常有(人)	軟組織異常有(人)	歯の形態・歯数異常有(人)	その他の異常有(人)
			01	02	A	B	C			総本数	1人あたり本数					
H26	211	198	51	142	2	3	0	5	2.53%	21	0.11	189	32	21	13	3
H27	215	201	62	135	2	1	1	4	1.99%	10	0.05	179	38	12	12	2
H28	79	78	14	62	2	0	0	2	2.56%	3	0.04	76	9	6	3	2

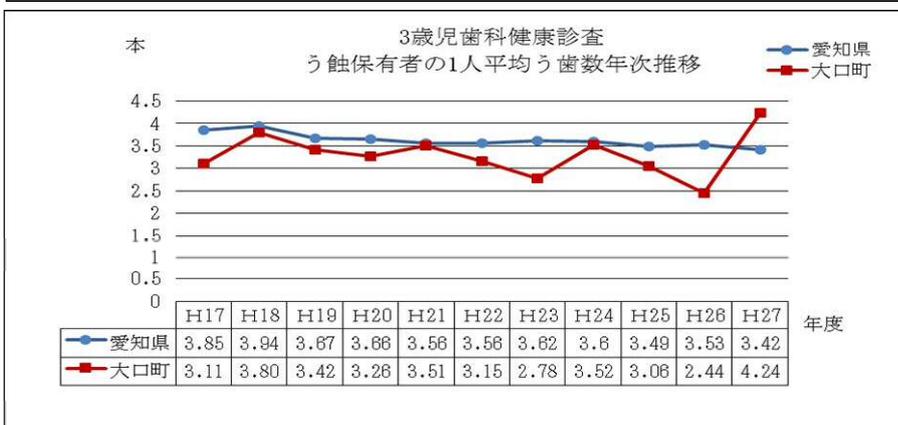
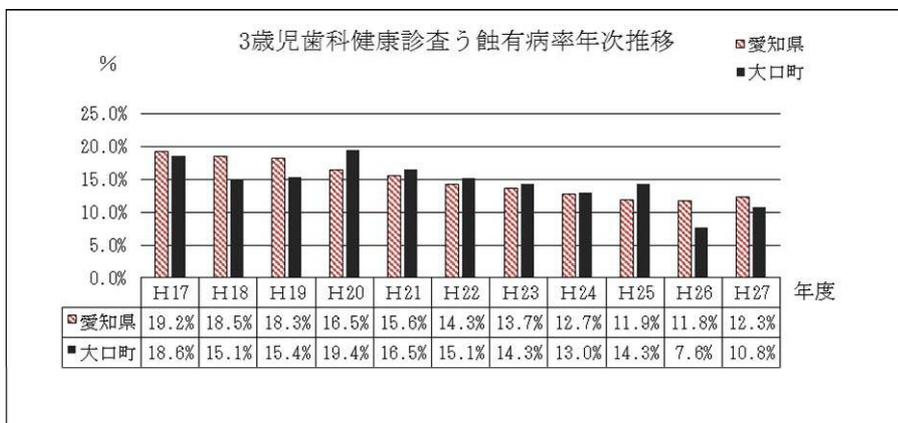
*H28年度の対象はH26年1月～3月生まれ。H26年4月生まれ以降は2歳児歯科健康診査に計上。

(4) 2歳6か月児歯科健康診査

年度	対象者数	受診者数	受診結果(人)					う蝕有病者数 (人)	う蝕有病率 (%)	う歯本数(本)		フッ化物塗布実施(人)	歯列・咬合異常有(人)	軟組織異常有(人)	歯の形態・歯数異常有(人)	その他の異常有(人)
			01	02	A	B	C			総本数	1人あたり本数					
H28	136	84	32	51	0	1	0	1	1.19%	6	0.07	79	22	13	2	0

(5) 3歳児歯科健康診査

年度	対象者数	受診者数	受診結果(人)					う蝕有病者数 (人)	う蝕有病率 (%)	う歯本数(本)		フッ化物塗布実施(人)	歯列・咬合異常有(人)	軟組織異常有(人)	歯の形態・歯数異常有(人)	その他の異常有(人)
			01	A	B	C1	C2			総本数	1人あたり本数					
H26	211	207	189	15	3	0	0	18	8.70%	44	0.21	189	36	22	18	2
H27	241	232	207	15	7	0	3	25	10.78%	106	0.46	218	35	19	14	4
H28	218	215	198	12	5	1	0	18	8.37%	61	0.28	195	39	14	8	0



3 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

歯周病に罹患しやすい妊娠中に歯科健康診査を実施することにより、妊婦の歯及び口腔の疾患を予防するとともに、生まれてくる子どもの口腔衛生の向上を図る。

(2) 実施内容

母子健康手帳の交付を受けた妊婦に対し、受診票を発行し妊婦歯科健診費用 1 回分を全額助成した。

＜健診内容＞歯周病予防健康診査

健診結果説明、口腔衛生指導（歯の健康づくり得点、歯みがき指導を含む）

(3) 実施場所 尾北歯科医師会大口地区の歯科医療機関（10 か所）

(4) 実施状況

区分 年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	平均 現在歯数 (本)	平均 健全歯数 (本)	平均 処置歯数 (本)	平均 未処置歯数 (本)	歯周疾患 判定者数 (人)
27	219	85	28.5	19.2	8.0	1.3	18
28	240	88	28.2	19.4	7.6	1.2	20

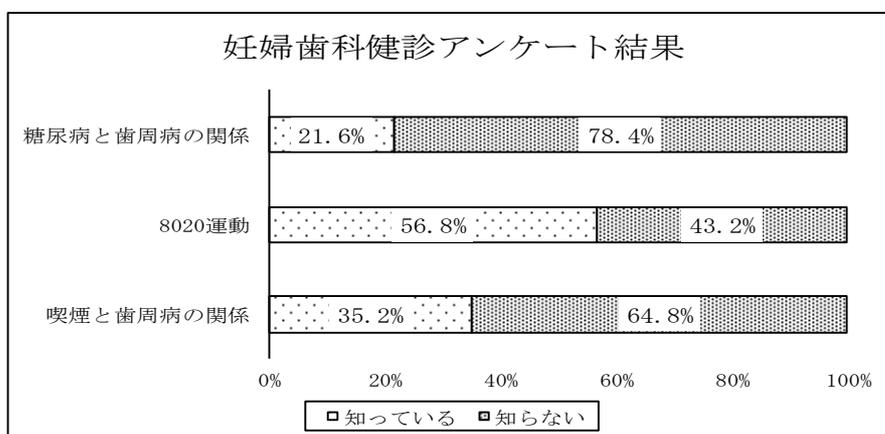
＜C P I（歯周コード）判定＞ (人) ※歯周コード3以上を歯周疾患と判定する。

個人コード（最大値）				
0	1	2	3	4
7	19	42	18	2

【C P I（歯周コード）判定基準】
0：健全な歯肉の状態
1：歯肉から出血する状態
2：歯石沈着あり
3：歯周ポケット4ミリ以上6ミリ未満
4：歯周ポケット6ミリ以上

＜総合判定＞ (人)

年度	異常なし	要指導	要精検
27	12	18	55
28	14	16	58



4 歯周病予防健康診査

(1) 目的

40歳以上の町民に歯周病予防健康診査を実施することにより、歯周病の早期発見、早期治療を促し、歯の喪失予防や口腔機能の維持向上のための口腔衛生の向上を図る。

(2) 実施内容

40歳以上の町民に対し、歯周病予防健診費用1回分を全額助成した。

＜健診内容＞歯周病予防健康診査（問診、現在歯・喪失歯・歯周組織の状況及び口腔清掃状態の検査、健診結果の判定）

健診結果説明、口腔衛生指導（歯の健康づくり得点、歯みがき指導を含む）

(3) 実施場所及び実施期間

尾北歯科医師会大口地区の歯科医療機関（10か所）

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(4) 実施状況

ア 性別・年代別受診者数 (人)

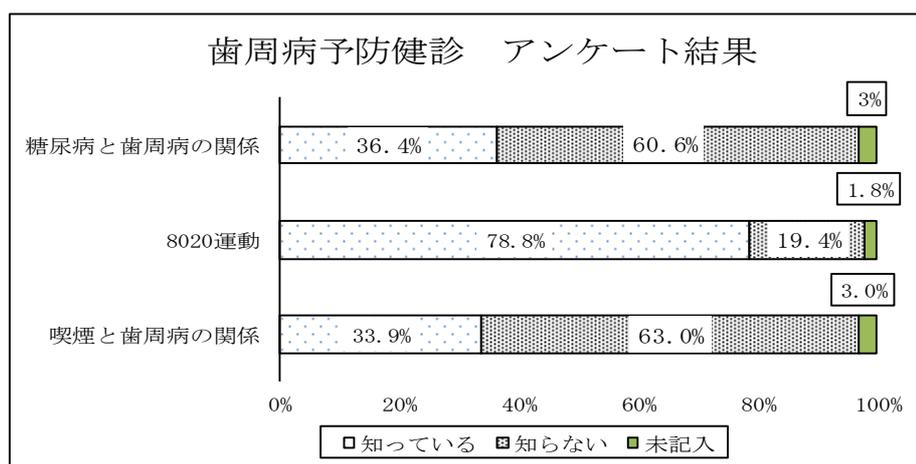
性別	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
男性	17	8	12	13	3
女性	25	30	33	19	5

イ 健診結果

区分 年度	受診者数 (人)	平均 現在歯数 (本)	平均 健全歯数 (本)	平均 処置歯数 (本)	平均 未処置歯数 (本)	歯周疾患 判定者数 (CPI3以上) (人)
27	244	25.5	11.0	14.1	0.5	47
28	165	26.2	11.7	13.8	0.6	33

ウ 総合判定

年度	異常なし (人)	要指導 (人)	要精検 (人)
27	32	33	179
28	11	68	86



5 歯周病相談

(1) 目的

歯周病の罹患が急増する40歳以降の町民に対し、歯間部清掃用具の活用や定期的な歯科検診の受診等歯周病予防に関する適切な口腔管理について指導することにより、歯周病予防健診受診者の増加及び歯周病の有病者の減少を図る。

(2) 実施内容

集団がん検診の待ち時間を利用し、歯科衛生士によるペリオスクリーン検査（唾液中潜血検査）、口腔衛生指導を実施した。

(3) 実施日時

6月7日（火）午後1時～3時（前立腺がん検診会場）

7月21日（木）午前10時～12時・午後1時～3時（乳がん・子宮頸がん検診会場）

9月30日（金）午前9時～12時・午後1時～3時（乳がん・子宮頸がん検診会場）

(4) 実施状況

（人）

年齢	男性		女性	
	実施者数	ペリオスクリーン陽性者（再掲）	実施者数	ペリオスクリーン陽性者（再掲）
40歳未満	0	0	3	2
40歳～64歳	2	2	12	7
65歳～74歳	4	4	3	2
75歳以上	1	0	1	1
合計	7	6	19	12

6 8020・9018運動 歯の健康コンクール

「80歳になっても20本以上自分の歯を残そう」という「8020運動」の一環として、8020運動歯の健康コンクールを開催し、8020（80歳以上で20本歯以上）、9018（90歳以上で18本歯以上）の達成者を表彰した。

(1) 実施方法

広報や老人クラブ連合会等で対象者を募集し、尾北歯科医師会大口地区の歯科医療機関において審査を実施した。11月13日（日）尾北歯科医師会主催の「歯の健康センター」において表彰式を開催した。

(2) 8020・9018達成者

8020達成者：19人（男性8人、女性11人） 9018達成者：2人（男性1人、女性1人）

7 歯の健康づくり得点

町民自身が歯を失わないための生活習慣ができているかセルフチェックをし、点数に従ったアドバイスを参考に生活習慣の改善を促すことを目的として、歯周病予防健診の受診者を始め、健康教育や歯科相談の参加者に歯の健康づくり得点チェックシートを配布し活用した。

(1) 歯の健康づくり得点結果

(人)

質問項目	歯周病予防健診		妊婦歯科健診	歯科相談	合計
	男性	女性			
歯ぐきが腫れる	16	24	16	7	63
歯がしみる	15	34	27	10	86
間食をよくする	14	59	64	11	148
趣味がない	9	18	43	4	74
かかりつけ歯医者なし	3	6	42	2	53
治療は早めに受けない	9	20	30	7	66
歯ぐきから血が出る	20	24	51	7	102
歯みがき1日2回未満	18	7	7	2	34
自分の歯ブラシがない	1	0	0	0	1
たばこを吸う	12	5	0	0	17
16点以上者数	29	67	22	14	132(47.5%)
実施者数	53	112	88	25	278

*16点以上は歯を失うリスクが低いと判定される。

8 歯と口の健康週間（歯の健康センター）

歯と口の健康週間は、歯と口の健康に関する正しい知識を県民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって県民の健康の保持増進に寄与することを目的として、日本歯科医師会、愛知県歯科医師会、地区歯科医師会において実施される。

尾北歯科医師会では、平成28年6月5日（日）と11月13日（日）の2日間を実施日とし、歯の健康センターが開設された。

- (1) 実施場所 大口町保健センター
- (2) 対象者 乳幼児及び小学3年生までの児童、一般成人
- (3) 実施内容 歯科健康診査、フッ化物塗布（子ども）、健康相談
- (4) 従事者 尾北歯科医師会、愛知県歯科衛生士会尾張北部支部、健康生きがい課

- (5) 実施状況 (人)

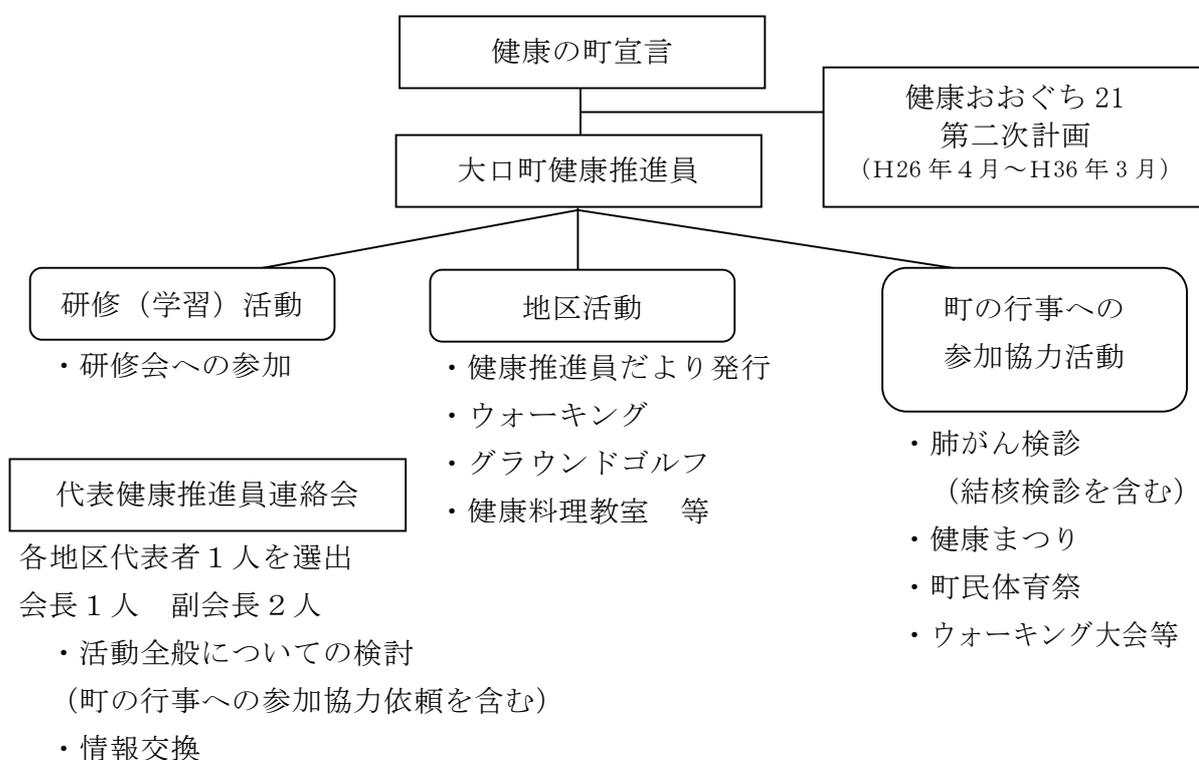
年度	実施時期	受診者数	内 訳	
			子ども	成人
26	6月	129	102	27
	11月	126	100	26
27	6月	134	112	22
	11月	130	101	29
28	6月	160	133	27
	11月	142	120	22

5 健康推進事業

1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

平成25年4月に大口町健康推進員設置要綱の任期を3年から2年に変更した。今年度は第8期2年目。健康推進員研修会への参加や区の活動に協力すること以外に、地区活動では、ポールウォーキングやいきいき100歳体操など新たな取り組みにチャレンジした。大口町健康づくり計画「健康おおぐち21第二次計画」は推進3年目となり、計画の周知と生活習慣の見直しを促す健康教育を健康推進員の研修会に組み込み啓発を図った。



(1) 健康推進員全体活動

(単位：人)

実施月日	内 容
11月5日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいまつり 2016 にてウォーキング大会開催 (参加者 367 人) ・健康まつりへの参加 「健康おおぐち21 第二次計画の推進」各ブースへの協力

(2) 健康推進員研修会実施状況 (計5回実施)

今年度は任期2年目であるため、健康推進員本人だけでなく地域の健康づくりと「健康おおぐち21第二次計画」の実践を目的に研修会を計画した。(単位:人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
平成28年 5月12日(木)	講義「生活習慣病を予防するために」 ・平成28年度健康診査について	ハートフルケアセミナー	37
7月15日(金)	講義「健康寿命をのばす食生活」 ・健康おおぐちマイレージについて	ハートフルケアセミナー	40
9月8日(木)	運動実技 「2万人体力測定・いきいき100歳体操体験」 ・健康づくりノートの活用確認 ・体力測定結果を踏まえた運動のすすめ	NPO法人ウィル大ロ スポーツクラブトレーナー	36
平成29年 1月24日(火)	視察研修 「回想法センターを体験しよう」 北名古屋市回想法センター及び歴史民俗資料館	健康生きがい課職員	34
平成29年 3月22日(水)	活動報告会及びお疲れさま会	健康生きがい課職員	50

(3) 代表健康推進員連絡会実施状況 (計6回実施)

実施月日	主 な 内 容
平成28年 4月15日(木)	平成28年度代表健康推進員役員選出と運営について 平成28年度健康推進員活動交付金について 地区活動について情報交換 結核肺がん検診への協力について 年間研修会等について
6月23日(木)	平成28年度地区活動事業計画について 結核肺がん検診の実績報告について(反省会) 健康まつり時ウォーキング大会について 活動報告会について 健康マイレージについて
9月8日(木)	ウォーキング大会について ・雨天時の判断、参加記念品、スタート時間、ゴール位置等 健康まつりへの協力について
10月13日(木)	ウォーキング大会について ・コース設定、募集チラシと参加者の締切、役割分担(案)等 健康まつりについて 地区活動の中間報告及び会計報告について 視察研修について
11月17日(木)	ウォーキング大会・健康まつりの反省会 地区活動の中間報告及び会計報告について 視察研修について 活動報告会について
平成29年 2月9日(木)	活動報告会及びお疲れさま会について 平成28年度地区活動実績報告について 第9期推薦状況について

(4) 地区自主活動の状況

地 区	活 動 状 況
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田グラウンドゴルフ練習（毎週月曜日） 毎回 50 人 ・太極拳教室（毎月第2、第4金曜日） 毎回 20 人 ・秋田区日帰りウォーキング 31 人 ・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 46 人 ・早朝太極拳とポールウォーキング大会（全2回） 43 人 ・秋田区町民盆踊り大会（綿菓子作り、抽選会手伝い） ・秋田秋季グラウンドゴルフ大会 68 人 ・健康まつりウォーキング大会 38 人 ・秋田区自主防災訓練参加 ・秋田グラウンドゴルフ春季大会 75 人 ・活動内容の検討と打ち合わせ（年間随時・新旧引き継ぎ会）
豊 田	<ul style="list-style-type: none"> ・しなやかお達者の会参加（毎月2回・年間24回） ・いきいき100歳体操（毎週金曜日） いきいき100歳体操と大正琴に合わせて歌う 36 人 ・ごきぶり団子づくり 50 人 ・早朝ラジオ体操（7月下旬4日間） ・地区盆踊り練習参加（5回） ・笑いヨガ 42 人 ・町民体育祭への参加 ・健康まつりウォーキング大会 34 人 ・南地域自治組織への参加 （総会・座談会・防災講演会・地域交流イベント） ・豊田区自主防災訓練への参加と協力 ・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・活動内容の検討と打ち合わせ（随時） ・健康推進員だよりの発行
大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・ゴキブリ団子作り 27 人 ・地区盆踊り大会練習（5回） 150 人 ・地区盆踊り大会支援（かき氷担当） ・町民体育祭支援 ・健康まつり・ウォーキング大会 40 人 ・防災訓練、芋煮会準備 ・防災訓練、芋煮会 250 人 ・大屋敷区ウォーキング大会 27 人 ・新田地区「いっぷく茶屋」活動支援（毎月第1土曜日） ・大屋敷区 サロン活動支援（毎月第2・4水曜日） ・花もちづくり等 ・活動内容の検討と打ち合わせ（随時）・新旧引き継ぎ会
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング講習会 25 人 ・救命救急講習会 15 人 ・健康まつりウォーキング大会 25 人 ・区民ウォーキング大会 44 人 ・親善グラウンドゴルフ大会 28 人 ・グラウンドゴルフ練習（毎月1回） ・ポールウォーキング（毎月1回） ・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・活動内容の検討と打ち合わせ（随時）

地 区	活 動 状 況	
河 北	・犬山健康ウォーキング（雨天中止）	申込み 42 人
	・ポールウォーキング講習会	18 人
	・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援	
	・地区盆踊り大会への参加	
	・口腔ケア講習会	19 人
	・健康まつり時ウォーキング大会	46 人
	・高齢者ふれあい事業への参加（二ツ屋）	30 人
	・高齢者ふれあい事業への参加（仲沖）	30 人
	・介護・認知症講習会	30 人
	・災害への備え講習会	29 人
	・夜回り（月 2 回）	10 人以上
	・ポールウォーキング（毎週火曜 19:30～）	10 人以上
	・陽だまりの会（毎月第 2 水曜日）	40～70 人
	・北地域自治組織（福祉事業部会 毎月 1 回と事業 6 回）へ 推進員 1 名選出	
・区への活動報告会		
・活動内容の検討と打ち合わせ（随時）		
余 野	・リズム体操（月 2 回）	15～17 人
	・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援	
	・グラウンドゴルフ大会（グラウンドゴルフ同好会と共催）	
	・余野夏祭り実行委員会への参加・模擬店の出店	
	・余野区防災訓練参加	
	・健康まつり時ウォーキング大会	45 人
	・グラウンドゴルフ大会（県議杯）参加	
	・名鉄ウォーキング大会（雨天中止）	
	・健康料理教室（災害時の食事）	20 人
・活動内容の検討と打ち合わせのための定例会（月 1 回）		
・新旧引き継ぎ会		
上小口	・ポールウォーキング（全 25 回）	延べ 242 人
	・ナイトウォーキング（全 14 回）	延べ 126 人
	・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援	
	・ポケットパーク草取り（全 2 回）	
	・町民体育祭参加	
	・盆踊り練習（2 回）	80 人～
	・早朝ラジオ体操に参加（8/17～8/23）	
	・健康まつり時ウォーキング大会（上小口 17 人・萩島 15 人）	27 人
	・区民歩け歩け大会	多数人
	・犬山城下町ウォーキング	25 人
中小口	・グラウンドゴルフ練習（毎週月曜日）	毎回 20～25 人
	・健康体操（毎週火曜日）	毎回 20 人
	・地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援	
	・グラウンドゴルフ大会	27 人
	・盆踊り練習	50 人
	・盆踊り大会（2 日間）	600 人
	・医師による健康講話	50 人
	・保健師による健康講座	28 人
	・健康まつり時ウォーキング大会	30 人
	・区民ウォーキング（犬山寂光院周辺）	36 人
	・中小口グラウンドゴルフ大会	28 人

地 区	活 動 状 況
下小口	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナイトウォーキング（毎週金曜日）（5月～10月） ・ 地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・ ヘルシーお菓子作り教室 23人 ・ 地区盆踊り大会練習参加 会場設営等支援 39人 ・ ウォーキングダンス教室 37人 ・ 町民体育祭参加 ・ 健康まつり時ウォーキング大会 37人 ・ 下小口地区ウォーキング大会 55人 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ
垣 田	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラウンドゴルフ練習（毎週月・水曜） ・ ポールウォーキング（毎週火・木曜） ・ 地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・ 垣田グラウンドゴルフ大会 14人 ・ 夏祭り参加 ・ 垣田防災 AED講習参加 ・ 健康まつり時ウォーキング大会 16人 ・ 犬山城下町街ウォーキング（1月）11人 （3月）15人 26人 ・ 垣田グラウンドゴルフ大会 13人 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ
さつき ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気体操、ポールウォーキング（毎週水曜日） 延べ570人 ・ あいさつ運動（毎月第1金曜日） ・ こけ玉作り 15人 ・ 地区肺がん検診（結核検診を含む）の周知啓発と当日支援 ・ 子ども会夏休みラジオ体操支援（7/24～7/28・8/28～31） 延べ600人 ・ さつきふれあい夏祭り参加協力 ・ 町民体育祭参加協力 ・ さつきヶ丘秋祭り参加協力 ・ さつきヶ丘AED講習会参加 40人 ・ 中地域自治組織ポールウォーキング講習会参加 ・ 健康まつり時ウォーキング大会 23人 ・ 健康推進員感謝の集い 30人 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）・新旧引継ぎ会

2 健康おおぐち 2 1 第二次計画の推進状況

大口町の健康づくり計画「健康おおぐち 2 1 第二次計画」は、平成 26 年度から「健康づくり＝町づくり」「健康づくりの主役は住民」と捉えた「健康おおぐち 2 1 第一次計画」の基本理念を継承し、「健康で笑顔の大口 みんな元気 ずっと元気!!～見直そう 生活習慣～」をめざす姿（大目標）に掲げて推進している。

基本目標 1 の推進として今年度は 8 月より愛知県との協働事業である「おおぐち健康マイレージ」事業を新規で開始した。健康マイレージは広報おおぐち 8 月号の折り込みチラシとして住民へ周知を展開し、その他に健康推進員の研修会や地区活動時、乳幼児健診の保護者や住民からの要請による出前対話など、機会をとらえて広く啓発した。また、運動習慣をつけるための 1 つの方法として啓発しているポールウォーキングは、健康推進員の地区活動に取り入れられ、その後は地区活動として、健康推進員とポールウォーキングリーダーを中心に自主活動が継続されている。さらに今年度は、高齢者を対象にロコモティブシンドローム予防を目的として老人クラブ役員を対象とした講座も実施した。

「2 万人体力測定」は運動施設指定管理者との委託契約のもと、元気づくりサポーターの協力を得て継続して実施している。若い世代への体力測定結果を踏まえた運動教室を実施し、子育て世代への運動習慣の定着を狙った事業を展開し、自主活動へつなげている。

基本目標 2 の推進としては、戸籍保険課と連携し、糖尿病の重症化予防対策として昨年度の参加者を対象とした事後教室を開催する一方で、血圧・血糖・慢性腎臓病（CKD）の重症化予防のため、家庭訪問を実施した。

(1) おおぐち健康マイレージ事業

健康づくりへの動機づけ及び健康な生活習慣の定着を促すため、健診受診や生活習慣など指定の健康づくりに関する事項をポイント化して付与し、インセンティブを設けることで個人が生活習慣改善に取り組む姿勢を支援すること目的とする。また、生活習慣改善の定着を促し、生涯を通じた健康づくりを主体的に取り組めるよう啓発する事業。

ア 事業開始

平成 28 年 8 月 1 日から

イ 対象

18 歳以上の町内在住者または町内事業所に勤務する者

ウ 健康チャレンジ期間

「私の健康宣言」を行った日から 1 年以内

エ おおぐち健康マイレージ達成者

108 人

愛知県の健康マイレージ協賛店舗の他、大口町独自に町内外の企業に協賛を募り、19 事業所の協賛を得た。この協賛を「おおぐち健康マイレージ」達成者へ還元するため、11 月の健康まつりと 3 月の朝市会場において抽選会を 2 回行った。抽選賞品には自転車や健康器具・運動施設体験券の他、電動歯ブラシや商工会商品券など参加者の健康づくりに取り組むためのモチベーションアップにつながるものがあり、第 1 回抽選会の反響

から第2回の抽選会をめざして挑戦する声も聞かれた。

(2) 健康おおぐち2 1 第二次計画の啓発

ア 乳幼児・保育園・小中学校及びの保護者向け

(21回 延1,117人)

日 時	内 容	対 象 者	人数
5/17・5/18 5/24	生活リズムのととのえ方 健診受診のすすめ	町立3保育園保護者 (子育て講座・父母の会総会時)	222人
6月～10月 (第3木曜日)	体力測定	親子ふれあい広場参加者	7人
	歯の健康ワンポイントレッスン		7人
	生活習慣病予防		6人
9月10日(木)	元気体操	南小学校児童	約300人
10月16日(金)	子どもと保護者の健康 ～生活リズムと朝ごはん～ 健康づくりノート発行 健康マイレージの紹介	来年度北小学校に 就学予定の児童の保護者	103人
12月～2月 (12日間)	野菜から食べる	町内4保育園の園児 (年長・年中・年少)	386人

イ 健康推進員研修会(全体)

(4回 述べ158人)

日 時	内 容	人数
5月12日(木)	講義「生活習慣病を予防するために」 ・平成28年度健康診査について	37人
7月15日(金)	講義「健康寿命をのばす食生活」 ・健康おおぐちマイレージについて	40人
9月8日(木)	運動実技 「2万人体力測定・いきいき100歳体操体験」 ・健康づくりノートの活用確認 ・体力測定結果を踏まえた運動のすすめ	36人

ウ 成人・高齢者向け(教室)

(14回 延749人)

日 時	内 容	団体名	人数
5月31日	食育普及啓発	憩いの四季 さくら屋	9人
7月4日	低栄養予防	老人クラブ女性部	30人
7月15日	熱中症予防と高血圧予防	さつきヶ丘老人クラブ	40人
8月・11月 (2回)	健康寿命と食生活 (非常時の食事管理) (高血圧対策と減塩のコツ)	健康クラブ笑顔21 一般住民男性	36人
6月16日	歯科指導(保護者・児童)	南小学校保健委員会	66人
10月・1月	感染症予防と健康マイレージの啓発	健康推進員地区活動(中小口・河北)	72人

日 時	内 容	団体名	人数
12月～2月	糖尿病重症化対策実践講座 ①糖尿病の食事管理 ②運動編 の2回コース	H28年度の糖尿病予防教室を受講した人	延43人
1月24日・25日	朝食の摂取状況と生活リズム	商工会検診受診者	126人
2月7日	災害時の食事と健康マイレージの啓発	健康推進員地区活動（余野）	20人
3月3日	お口の体操	憩いの四季 さくら大学	46人

エ 町民全体への周知…平成28年11月5日（土）健康まつり 参加者 延べ2,380人

コーナー名	人数	コーナー名	人数
血管年齢チェック	176人	体組成測定	120人
歯科相談・お口の水分量チェック	113人	高齢者の介護・介護予防相談 （地域包括支援センター）	27人
歯の健康づくり得点（大人）	116人	お薬相談（薬剤師会）	45人
子ども用クイズ（子ども） （歯科衛生士会）	85人	ちびっこ薬剤師体験	120人
ポールウォーキング体験	14人	健康相談（保健師・管理栄養士）	107人
姿勢チェック（ポールウォーキングリーダー）	61人	糖尿病啓発コーナー	
足裏バランス測定	209人	脳年齢チェック	96人
食育展示・食育クイズ	123人	脳トレ（一期一会荘）	204人
食事診断（食育SATシステム）	148人	頭と体の健康トレーニング	41人
在宅医療紹介コーナー（尾北医師会）	37人	アルコール相談（尾北断酒会）	71人
癒しの抹茶コーナー（高齢者福祉協力員）	119人	いきいき100歳体操体験	105人
体力測定（東海学園大学）	190人	もみほぐし	17人
ハンドマッサージ体験	13人	整膚体験	23人

オ 広報「おおぐち」掲載

広く町民への啓発として広報誌に「みんなですすめる！健康おおぐち21第二次計画」のコーナーを設け、計画の概要や「10年後も元気」でいられるような健康づくりの周知を目的に掲載している。

掲載月	内 容	内 容
4月号	【たばこ・アルコール分野】	喫煙しない！
6月号	【食生活分野】	食育推進月間「おうちでごはんの日」
9月号	【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	健康増進普及月間
10月号	【食生活分野】	読書週間と食育
11月号	【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	「正しく知ろう糖尿病シリーズ①」 糖尿病ってどんな病気？
12月号	【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	「正しく知ろう糖尿病シリーズ②」 体内時計

掲載月	内 容	
1月号	【歯の健康分野】 【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	8020 運動・歯の健康コンクール表彰者紹介 「正しく知ろう糖尿病シリーズ③」 バランスのよい食事って何？
2月号	【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	「正しく知ろう糖尿病シリーズ④」 効果的な運動って何？
3月号	【生活習慣病の発症予防と重症化予防】	「正しく知ろう糖尿病シリーズ⑤」 睡眠不足が糖尿病のリスクをあげる?! 睡眠の質を上げる方法

カ 大口町栄養改善事業「食育担当実務者連絡会議」

住民への栄養改善事業及び食育を円滑にかつ効果的に推進するため、また健康おおぐち21第二次計画の推進のため、各ライフステージの食育を担当する実務者間の交流と連携を図り、それぞれの対象を通して町民の生涯を通した一貫性のある食育の取り組みを目指すことを目的に平成26年度から実施している。

(ア) 実施日時と内容

実施日	内 容
第1回 平成28年7月11日(月)	・食育月間の取り組み結果と意見交換 (地産地消給食の実施) ・読書週間の取り組みについて意見交換
第2回 平成28年12月12日(月)	・読書週間の取組結果を意見交換 ・健康まつりにおける食育啓発展示の実施 ・来年度の食育計画について意見交換
第3回 平成29年3月7日(火)	・各部署の次年度食育計画内容について情報交換 ・次年度の取り組みについて

(イ) 出席者

健康生きがい課 管理栄養士 1人
町保育所 管理栄養士 1人
町立小学校及び中学校の栄養教諭及び学校栄養職員(県職) 2人

(エ) 結果

出席者が異動等により毎年変わるため、再度会議の目的を共有し情報交換することから始めた。子どもたちが成長していく過程での食生活の問題点や家庭環境などについて情報交換し共有することで、切れ目なく食育を行う連携の必要性和ライフステージの節目をとらえて啓発すること、今後の食育活動に還元する可能性が確認できた。今後も町全体で食育を発信するために、継続してこの会議を開催すること、来年度の食育計画や給食実施計画へこの取り組みを組み込んでいき、保育園と小中学校および地域において共通した話題での食育活動を実施することを計画した。

(2) 2万人体力測定

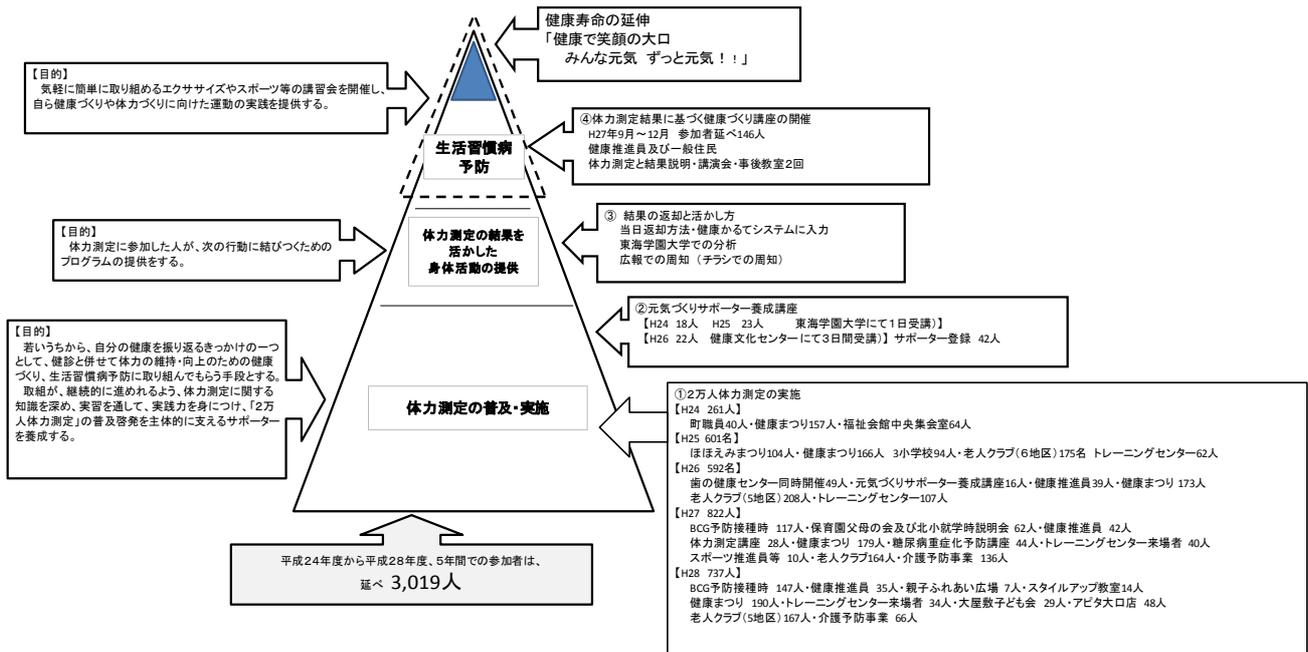
実施者数：737人

実施日	対象者	参加人数	実施主体
毎月第2金曜日	BCG予防接種時	147人	トレーニングセンターに委託 (町外12人含む)
毎月第2水曜日	トレーニングセンター来場者	34人	
8月24日	大屋敷子ども会	29人	
6月	アピタ大口店来場者	48人	トレーニングセンター自主事業
5月	親子ふれあい広場	7人	健康生きがい課
9月8日(木)	第8期健康推進員	35人	
3月	スタイルアップ教室	14人	
11月5日(土)	健康まつり来場者	190人	東海学園大学に委託
5月19日	余野老人クラブ	26人	ウィル大口スポーツクラブに委託
5月20日	さつきヶ丘老人クラブ	42人	
6月17日	秋田老人クラブ	44人	
6月22日	下小口老人クラブ	27人	
10月19日	豊田老人クラブ	28人	
			計167人
12月14日	いきいき100歳体操参加者	31人	ウィル大口スポーツクラブに委託
12月16日	さつきヶ丘区	12人	
6月8日・9月7日	豊田区 垣田区	延23人	
			計66人

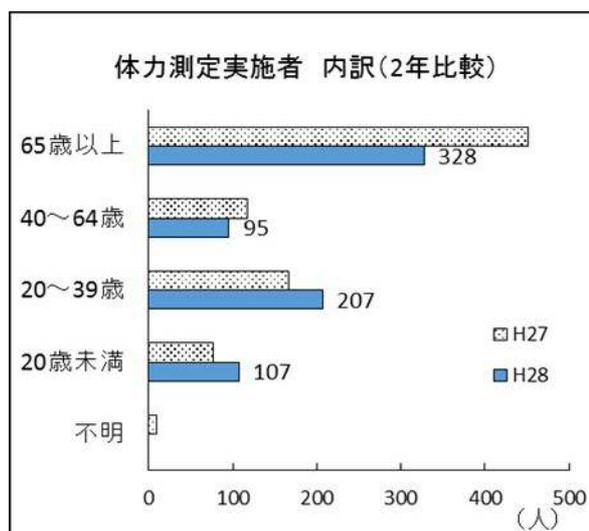
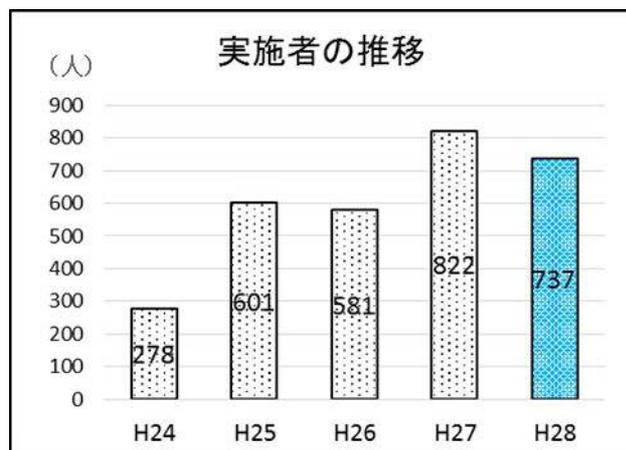
体力測定を活用した健康づくり イメージ図

【事業の概要】
「2万人体力測定」は、「10年後も元気なよう！」を合言葉に、平成24年度から取り組んでいる「おおぐち2万人元気計画」に基づき実施している健康づくり事業の一つである。

【事業の目的】
自分の体力や筋力、活動量を知ることで、現在の健康状況や生活習慣を振り返るきっかけとし、自分に合った運動習慣を身につけ、また、日常生活の中で意識して動くことにより、早い段階からの生活習慣病予防を啓発することを目的としている。



< 2 万人体力測定実施者の傾向 >



平成 27 年度から継続して行っている BCG 予防接種時の機会をとらえた若い世代への体力測定では参加者が増加しており、子育て中であっても自分の体に関心を持ってもらう機会となっている。

また、介護予防事業「いきいき 100 歳体操」では、体操を実施した前後の評価指標として活用している。高齢者の中には測定が困難な種目もあるため、実施項目を減らしたりロコモティブシンドローム予防の指標を加えたりして活用している。

(3) 2 万人体力測定意見交換会 (元気づくりサポーター研修会)

「2 万人体力測定」の実施は、委託運動施設と元気づくりサポーター及び行政の連携が不可欠であり、さらに、体力測定結果の分析と結果の活かし方については、連携協定を結んでいる教育機関との相互の共通認識と理解が必要である。体力測定に関わる人が情報を共有し、共通理解の上で事業を円滑に進める目的のため、年 1 回程度開催している。

- ア 日 時 平成 29 年 3 月 1 日 (水) 午前 9 時 30 分～12 時
- イ 場 所 健康文化センター 1 階 多目的室
- ウ 内 容 (ア) 平成 28 年度「2 万人体力測定」の実施状況報告
 (イ) 講義「体力測定の結果とこれからの展開について」
 講師 東海学園大学 島 典広 准教授
 (ウ) 平成 28 年度「2 万人体力測定」について
 ①高齢者における体力測定の効果と今後の方向性について
 発表者：ウィル大ロススポーツクラブ 濱田氏
 ②子育て世代への体力測定の効果と今後の方向性について
 発表者：トレーニングセンター 中村氏
 ③元気づくりサポーターとの意見交換

エ	出席者	元気づくりサポーター	7人
		ウィル大口スポーツクラブ指導者	2人
		トレーニングセンター トレーナー	1人
		地域包括支援センター職員	1人
		戸籍保険課・健康生きがい課職員	7人

(4) ロコモティブシンドローム予防のためのポールウォーキング

ア 目的

ロコモティブシンドローム予防を目的として2本のポールを使用し、初心者向けのポール体操とポール手軽に効果的にできるウォーキングの普及を図る。

イ 対象及び参加者数

老人クラブ連合会役員執行部及び地区役員	29人
ポールウォーキングリーダー	5人

ウ 実施回数及び場所

1回 健康文化センター1階 多目的室

エ 従事者

講師（ポールウォーキングマスターコーチ・健康運動指導士）・保健師・管理栄養士

(5) ポールウォーキングリーダー定例会（さくらPW定例会）

ア 目的

一人一人が健康で活力ある地域づくり、町づくりをめざして、ポールウォーキングリーダーとともに町民の方々へのさらなる普及を図るため、事業の計画や意見を意見交換を行う。

イ 対象

ポールウォーキングリーダー養成講座受講者及び、地域でのポールウォーキング自主活動を実施している方

ウ 実施回数及び場所

定例会 6回 健康文化センター1階 多目的室

エ 従事者

保健師・看護師・管理栄養士

オ 内容

事業計画（新規の方のための講座、町民体育祭、桜並木ジョギング大会、町外ポールウォーキング講座等）と、事業への参加協力（高齢者のためのポールウォーキング講座、中地域自治組織ポールウォーキング等）

カ 参加状況

参加延べ人数 63人（実人数18人）

今年度は、地域活動支援団体「まちネット大口」から講座の講師を依頼され、ポールウォーキングリーダーが1つの団体として、他団体と協働で「地域デビュー講座」を受け持った。

(6) ポールウォーキング自主グループ支援（ツインポール体験講座）

ア 目的

ポールウォーキングリーダーの資質向上と自主活動支援において、自主活動参加者の横のつながりを強化する。また、ポールを用いた筋力トレーニングを知る。

イ 対象 ポールウォーキングリーダー及び自主活動に参加している一般住民

ウ 実施期間及び場所

平成 29 年 1 月 26 日（木） 健康文化センター1階 多目的室

エ 講師 ツインポール指導者

オ 内容 ツインポールの講義と実技

カ 参加状況 35 人

(7) 町内ポールウォーキング自主活動

平成 24 年度から行ってきたポールウォーキングの普及啓発は、ポールウォーキングリーダーと第 8 期健康推進員の協力により、町内 8 地区で自主活動が行われている。

地区への参加者は自分のポールを購入し、継続した運動として定着している。自主活動への参加者にアンケート調査を実施したところ、マイポール持参の参加者は、自主グループへの参加以外に個人で週 1 回以上行っている人が多い。また、ポールウォーキングを始めた感想としては、歩くのが楽しくなった、腰やひざの痛みを気にせず歩ける、どんどん歩ける感じ、といった意見が多く聞かれ、積極的に外に出られるようになった、自分が明るくなった気がするといった、心の健康に関する感想も多く寄せられた。平成 28 年度は町内 8 か所において自主グループが立ち上がった。

	実施日	集合場所	1 回あたりの参加人数
ポールウォーキング自主活動	毎週水曜日 午前 9 時 30 分～	健康文化センター 1 階ホール	約 20 人
上小口ポールウォーキング	毎週火曜日 午前 9 時 30 分～	上小口学習等供用施設	約 10 人
余野ポールウォーキング	毎週木曜日 午前 9 時～	余野学習等共同利用施設	約 10 人
ハッピースマッチー健康教室	原則第 3 金曜日 午前 9 時 30 分～	大口町健康文化センター 1 階ホール	約 5 人
さつきヶ丘ポールウォーキング	毎週水曜日 午前 9 時～10 時	さつきヶ丘防災センター (健康推進員主催)	約 15 人
外坪ポールウォーキング	毎月第 1 日曜日 午前 8 時～	外坪学習等共同利用施設 (健康推進員主催)	約 10 人
河北ポールウォーキング	毎週火曜日 午後 7 時 30 分～	ラ・モーナ幼稚園正門前 (健康推進員主催)	約 15 人
垣田ポールウォーキング	毎週火・木曜日 午後 7 時～	県営大口住宅 12 棟付近 (健康推進員主催)	約 5 人

3 国保・介護・健康・福祉の連携

取組みの背景・状況

年々伸び続ける国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険などの給付費は、今後の高齢者の増加に伴い、ますます増えていくものと思われる。町としては医療や介護の給付費の抑制“給付を抑える＝予防”を図ることが必要である。

そこで平成22年度から、戸籍保険課国保グループ、健康生きがい課介護グループ、健康グループが連携をして、国保・介護・健康の総合的な視点から現状の把握と分析に努めた。医療費分析の結果から、本町は脳血管疾患での受診率が高く、その医療費も高いことがわかり「血管を守ろう!」を合言葉に住民に対して、医療や介護の現状の理解、健康への関心を高めるため地区での説明会を開催し、住民の健康意識を高めた。

また、平成26年度からは健康おおぐち21第二次計画の基本目標2に「生活習慣病の発症予防と重症化予防」を、基本目標3に「元気を支えるまちづくり」を掲げ、住民組織や既存団体との連携を強化しつつ取り組み、特定健診結果に基づき特定保健指導だけでなく、生活習慣病の重症化対策についても連携して事業を展開している。

(1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防対策

ア 糖尿病予防講座（実践編）

平成27年度に実施した「血糖値が気になる方の健康講座（全5回）」の生活習慣改善の実践編として、今年度は栄養編と運動編の2回の講座を実施した。

（内容は成人保健活動「10 健康教育」に記載）

イ 重症化予防対策

特定健診後の保特定保健指導の対象とならない保健指導判定値及び受診勧奨判定値を持つ方に対して、生活習慣病の重症化予防対策として、血圧・血糖値・尿たんぱく・腎機能の項目に関して、電話や面接・家庭訪問の手法を用いて保健指導及び受診勧奨を行った。

主治医がある者については、保健指導の可否を主治医に確認してもらい、主治医の承諾を得て行った。

（内容は成人保健活動「3 特定健康診査・特定保健指導」及び「11 家庭訪問」に記載）

6 感染症予防事業

1 予防接種

予防接種は、感染症予防のために最も有効な手段の一つである。その目的を果たすためには、予防接種法等関係法令の規定に基づき乳幼児や学童、高齢者に対して安定的に予防接種の機会を提供し、安全で有効な予防接種を実施し、一定の接種率を確保することが重要である。広報・ホームページ等で接種可能な医療機関や接種対象者等を周知し、未接種者には乳幼児健診や個別通知で接種勧奨を行い接種率の向上に努めている。

(1) 個別接種実施体制

出生届出時に戸籍保険課において、予防接種予診票綴と説明書を交付している。日本脳炎 2 期及び二種混合の予防接種の予診票については、個別通知し接種勧奨している。転入者については保健センターで予診票の交付(差し替え)を行っている。

高齢者インフルエンザ及び高齢者肺炎球菌予防接種は、予診票を個別通知している。接種希望者は委託医療機関にて一部負担金を支払い接種を受ける。一部負担金については、インフルエンザは 1,200 円（平成 28 年度金額変更）、高齢者肺炎球菌は 2,000 円(町民税非課税世帯・生活保護世帯は接種前申請にて無料)。

ア 予防接種会場

予防接種の種類		接種方法	接種会場
A 類疾病	B 型肝炎	個別接種	尾北医師会管内 (大口町・扶桑町 江南市・犬山市) の委託医療機関 及び 愛知県内の委託 医療機関 ※H28.4.1 から 高齢者の予防接種も 愛知県広域での接種が 可能となった。接種前 に手続きが必要。(連絡 票・予診票が必要。)
	ヒブ		
	小児用肺炎球菌		
	四種混合 (百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオ)		
	ポリオ(急性灰白髄炎)：不活化ワクチン		
	水痘		
	MR (麻しん・風しん混合)・麻しん・風しん		
	日本脳炎		
	二種混合 (ジフテリア・破傷風)		
子宮頸がん			
B 類疾病	高齢者インフルエンザ	個別接種	尾北医師会管内 (大口町・扶桑町 江南市・犬山市) の委託医療機関 及び 愛知県内の委託 医療機関 ※H28.4.1 から 高齢者の予防接種も 愛知県広域での接種が 可能となった。接種前 に手続きが必要。(連絡 票・予診票が必要。)
	高齢者肺炎球菌		
A 類疾病	BCG	集団接種	保健センター

平成 26 年 4 月 1 日から A 類定期 (乳幼児・学童) のみ対象で開始となった愛知県広域予防接種(尾北医師会管内以外の愛知県広域内の委託医療機関での接種が可能)は、平成 28 年 4 月 1 日から B 類定期 (高齢者) も対象に追加された。接種希望者は事前に申請し、連絡票 (高齢者は予診票も必要) を受け取り予約後に接種する。

イ 個別予防接種の種類と期間

ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、ポリオ、水痘、MR(1期・2期)、日本脳炎、二種混合、子宮頸がん、高齢者肺炎球菌予防接種は4月から3月まで一年を通して実施した。平成28年10月1日よりB型肝炎予防接種がA類定期予防接種に追加された。この対象者は、平成28年4月1日以降の出生で1歳未満の児に対し3回接種する。高齢者インフルエンザ予防接種は、今年度より愛知県広域予防接種の開始に伴い接種期間を半月延長し、10月15日から12月31日の期間で実施した。

(2) 実施状況

(単位：人・%)

A類疾病		年度接種率	平成28年度			27年度	26年度	25年度
			対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
BCG			238	237	99.6	99.2	99.2	97.9
B型肝炎 (H28.10.1～開始)	1回目		247	195	78.9			
	2回目		247	177	71.7			
	3回目		247	82	33.2			
ヒブ (H25.4.1～開始)	1回目		247	244	98.8	100.0	111.7	82.5
	2回目		247	242	98.0	102.6	101.7	87.2
	3回目		247	244	98.8	100.0	100.4	86.2
	4回目		228	253	111.0	98.7	99.1	66.8
小児用肺炎球菌 (H25.4.1～開始)	1回目		247	243	98.4	100.4	114.2	86.7
	2回目		247	244	98.8	103.5	103.8	60.3
	3回目		247	244	98.8	100.4	99.6	55.1
	4回目		228	252	110.5	98.7	94.7	58.4
四種混合	第1期初回1回目		247	246	99.6	103.1	104.2	95.4
	第1期初回2回目		247	249	100.8	100.0	104.6	98.5
	第1期初回3回目		247	242	98.0	103.9	99.6	90.9
	第1期追加		228	261	114.5	95.0	83.2	6.4
ポリオ (不活化ワクチン)	第1期初回1回目			0				80.4
	第1期初回2回目			1				71.4
	第1期初回3回目			2				74.2
	第1期追加			1			80.8	64.9
水痘 (26.10.1～開始)	1回目		228	250	109.6	100.0	32.0	
	2回目		257	262	101.9	111.9	58.1	
麻しん・風しん混合(MR)	第1期		236	250	105.9	99.2	94.7	100.0
	第2期		250	243	97.2	100.0	95.3	96.7

※すべての製造販売会社が三種混合ワクチン(DPT)の販売を中止したことから、今後接種を開始する者は原則として四種混合ワクチン(DPT-IPV)を使用する。

(単位：人・%)

A 類疾病		年度接種率			28 年度			27 年度	26 年度	25 年度
		対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率			
日本脳炎	第 1 期初回 1 回目	244	244	100.0	120.5	116.0	51.5			
	第 1 期初回 2 回目	244	235	96.3	122.8	116.0	52.3			
	第 1 期追加	227	267	117.6	123.8	122.7	56.8			
	第 2 期	256	244	95.3	62.3	49.0	36.9			
二種混合	第 2 期	243	224	92.2	92.9	90.9	85.2			

※日本脳炎：平成 7 年 4 月 2 日～平成 19 年 4 月 1 日生まれの人は、20 歳未満まで接種期間が延長されている。平成 28 年度予防接種の特例に係る第 2 期積極的勧奨者は当該年度 18 歳となる者。

(単位：人・%)

A 類疾病		年度接種者数		28 年度		27 年度	26 年度	25 年度
		対象者	被接種者	被接種者	被接種者	被接種者		
子宮頸がん予防 (ヒトパピローウイルス感染症)	1 回目	109	0	1	0	37		
	2 回目	109	0	1	0	25		
	※H25.4.1～定期開始	109	1	0	1	23		

※平成 25 年 6 月から子宮頸がん予防接種の積極的勧奨を差し控えている。

(単位：人・%)

B 類疾病	平成 28 年度被接種者 (対象者 1,072 : 接種率 51.5)										27 年度	26 年度
	60 歳以上 65 歳未満	65 歳	70 歳	75 歳	80 歳	85 歳	90 歳	95 歳	100 歳	計	接種率	接種率
高齢者 肺炎球菌	0	142	152	166	54	27	9	2	0	552	50.0	55.1

※対象者は、60 歳以上 65 歳未満で基準の障害を有する方または、当該年度 65・70・75・80・85・90・95・100 歳の方で、過去に 23 価肺炎球菌ワクチンを接種していない方。

(単位：人・%)

B 類疾病	平成 28 年度			27 年度	26 年度	25 年度
	対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
高齢者インフルエンザ	5,312	3,267	61.5	61.3	62.9	61.6

(3) 高齢者肺炎球菌(任意)予防接種費用の助成

平成 23 年 6 月 1 日から下記の対象者に対して、高齢者が肺炎球菌予防接種を受けやすい体制を整備し、肺炎球菌に起因する肺炎の発症及び重症化を予防することを目的に、高齢者肺炎球菌予防接種費用を助成している。

ア 対象者

75 歳以上の高齢者及び 66 歳以上 75 歳未満で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫機能に障害(身体障害者手帳 1 級相当)を有する者。過去に高齢者肺炎球菌を接種した者は除く。高齢者肺炎球菌の定期接種開始に伴い、定期対象者は対象外とする。

イ 助成金額

町民税課税世帯(一部助成) 4,139 円

町民税非課税世帯及び生活保護世帯の方は(全額助成) 8,139 円

ウ 助成状況

(単位：人)

年度 助成者区分	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
一部助成者数	14	6	29	78
全額助成者数	0	1	8	19

(4) 風しん抗体検査及び風しんワクチン接種費用の助成

平成 25 年 7 月 1 日から、風しんの抗体価が低い妊娠初期の妊婦が風しんに感染した場合の胎児への先天性風しん症候群の発生を予防することを目的として、風しんワクチン接種費用の助成事業を実施している。平成 26 年 4 月 1 日からは、風しん抗体検査費用の一部助成も開始した。

ア 対象者

妊娠を予定又は希望する女性及び、その配偶者又は事実上婚姻関係にある者
妊娠している女性の配偶者又は事実上婚姻関係にある者

※ただし、風しんワクチン接種費用助成の場合、風しん抗体価が基準値より低く上記の条件に該当する者

イ 助成内容

風しんワクチン接種費用の 1/2 (上限 5,000 円)

風しん抗体検査費用の 1/2(上限 5,000 円)

※ただし、町民税非課税世帯及び生活保護世帯の者は全額助成。

ウ 助成状況

(単位：人)

年度 内容	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
風しん抗体検査	11	17	12	
風しんワクチン接種	6	7	4	23
MR ワクチン接種	19	8	16	105

2 新型インフルエンザ等対策

新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返してきたインフルエンザウイルスとはウイルスの抗原性が大きく異なる新型のウイルスが出現することにより、およそ10年から40年の周期で発生している。ほとんどの人が新型のウイルスに対する免疫を獲得していないため世界的な大流行となり、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されている。

平成24年5月に、「新型インフルエンザ等対策特別措置法」が制定された。国においては、平成25年6月に「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」を策定し、愛知県でも同年11月に「愛知県新型インフルエンザ等対策行動計画」が策定された。大口町においても国・県と同様に新型インフルエンザ等対策を医療体制確保のみならず、社会機能を維持すべき危機事案として捉え、「大口町新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定した。この計画に規定する対策の実効性を確保し、本町が行う業務の優先度に関する基本的な考え方や職員等の感染対策等についてあらかじめ整理し、新型インフルエンザ等発生時においても、大口町がその機能を維持し必要な業務を継続することができるよう、業務の整理等、発生時の業務継続上の基本的事項を定めることを目的として、「大口町業務継続計画」(新型インフルエンザ等編)を平成29年3月策定した。

(1) 大口町新型インフルエンザ等業務継続計画」策定の経過

実施月	内 容	備 考
平成28年 6月24日	庁舎内関係課で第1回打ち合わせ	政策推進課と町民安全課と 当課にて
7月7日	庁舎内関係課で第2回打ち合わせ	
8月4日	行政経営会議へ「町新型インフルエンザ等 対策行動計画の一部変更及び業務継続計画 (素案)」を提出	平成27年4月1日からの 機構改革に伴う計画の変更
8月26日	各課の業務継続計画作成依頼	
9月	各課より業務継続計画(案)の提出	
10月7日	庁舎内関係課で第3回打ち合わせ	政策推進課と町民安全課と 当課にて
	計画(案)の修正	各課に修正依頼
平成29年 1月17日	庁舎内関係課で第4回打ち合わせ	政策推進課と町民安全課と 当課にて
3月27日	健康づくり推進協議会で「大口町新型 インフルエンザ等業務継続計画」策定報告	

(2) 特定接種

新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づく特定接種（公務員）については、平成 28 年 12 月特定接種管理システムにて登録した。

(3) 住民接種

新型インフルエンザ等発生時における町が実施主体で行う住民接種体制の構築に関して「検討課題シート」を平成 28 年 8 月作成した。その後尾張北部医療圏内で各市町の検討課題シートについて検討し、追加修正した。平成 29 年 3 月 27 日の健康づくり推進協議会で現状報告し、今後課題を検討し、より現実的な接種体制を築いていく。

(4) その他

平成 28 年 6 月 16 日 健康生きがい課内防護服着脱訓練

平成 28 年 12 月 13 日 新型インフルエンザ等対策総合訓練（机上）

7 その他

1 学生実習指導

公衆衛生の視点を持った保健師、管理栄養士、看護師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護・栄養活動を学ぶ場として実施している。専門職として多岐にわたる役割の中で、生活の基盤となる公衆衛生の実践を学び、臨床と地域の連携を進めていく上で大切な機会となっている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数（人）	実習期間
名古屋医専 保健学科	保健師	2	平成 28 年 12 月 5 日～8 日
名古屋女子大学 家政学部 食物栄養学科	管理栄養士	5	平成 28 年 7 月 12 日 (地域デビュー講座) (10 か月児健診)
名古屋女子大学 家政学部 食物栄養学科	管理栄養士	5	平成 28 年 7 月 20 日 (らくらく離乳食教室)
椋山女学園大学 生活科学部 管理栄養学科	管理栄養士	5	平成 28 年 8 月 24 日 (4 か月児健診)

※学生は母子保健・成人保健・介護予防・住民と協働で進める健康づくりの取り組みを見学し、また対象者の特徴にあわせた健康教育、地区把握等を学ぶ。

※管理栄養士養成施設の学生は、1 週間の保健所実習の間に市町村保健センターの見学実習が位置付けられている。実習の事前課題として、見学する事業の対象児をターゲットとした献立作成を課し、見学実習後に事前課題の考察を行った。また、成人保健として、住民と協働で進める生きがいくりの場「憩いの四季」を視察した。

2 在宅医療介護連携事業

厚生労働省は2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活支援を目的として、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。(図1)

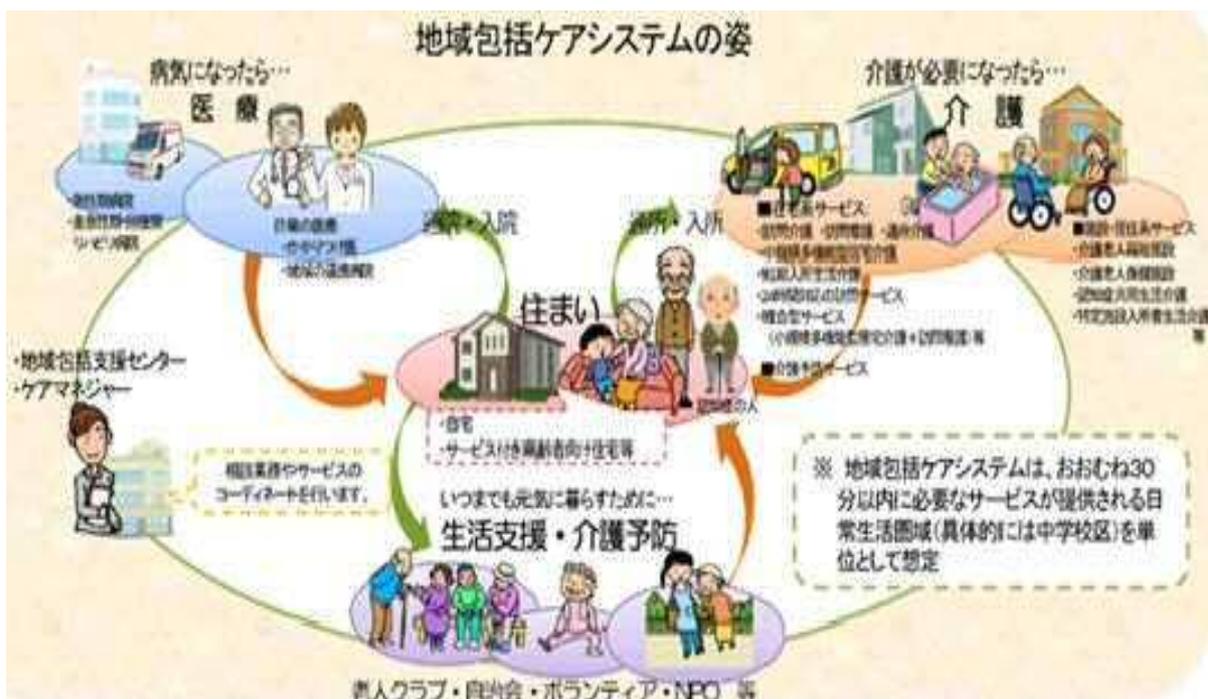


図1) 2025年の地域包括ケアシステムの姿

これは住まい・医療・介護・生活支援・介護予防が一体的に提供され、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で住み続けることができる地域のあり方を示しています。

「地域包括ケアシステムの構築」のためには、多くの医療職種によって提供される在宅医療と、介護関係職種を加えた多職種による真に包括的なケアのための協働・連携の体制を整えることが必要です。

1. 大口町の基本データ（平成28年4月1日現在）

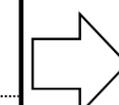
人口 23,198人	要介護認定者数431人(8.2%)	【医療資源】	【介護資源】
65歳以上人口 5,225人	全体 572人(10.9%)	診療所数 10カ所	特別養護老人ホーム 1カ所(80名)
高齢化率 22.5%	要支援認定者数141人(2.7%)	病院数 1病院	老人保健施設 1カ所(118名)
後期高齢者数 2,343人	独居高齢者数 475人(8.4%)	(一般232床、療養104床 回復期リハ54床)	グループホーム2カ所(18名)
		訪問ST 1カ所	有料老人ホーム2カ所(350名)
		訪問歯科診療実施医療機関数 2カ所	地域包括支援センター 1カ所
		訪問対応調剤薬局 6カ所	居宅介護支援事業所 6カ所
			軽費老人ホーム1カ所(50名)
			ケアハウス1カ所(20名)

2. 町民の受療行動調査結果(介護認定申請者(50名) 二次予防事業申請者(31名))

①認知症の方の受療行動
 ・認知症の方は重度化してから申請する傾向がある。体は元気なので、受診していない。かかりつけ医の意見書を書いてもらう医師がいない。
 ・受診行動を家族が把握しておらず、重度の認知症になって初めて受診することになる。一人暮らしの人は、特に認知症の発見が遅れる。
 ・認知症の発症時期が家族では見極められず、受診につながらない。本人が一人で受診し、医師と家族が話す機会もない。家族は連れていだけで、診察室に同行していない。

②町民の意識、受診先の選択
 ・町民に、受診のルールがない。緊急時にかかる医療機関を決めていない人が多い。救急車を呼ぶことをイメージしている。
 ・急性期の病院で受診した人は、慢性疾患がない場合に受診が途切れることがある。
 ・がんの入院治療終了後、地元でフォローしてもらい医療機関を自分で探さなくてはいけない人が増えている。
 ・治療終了後希望して近くの医療機関に移ったり、元の医療機関に戻ってきた人もいる。交通アクセスの面で、80代以上になると地元の医療機関にもどりたい希望が多い。
 ・住民はいざという時のために入院できる総合病院を希望する。病診連携で病院側が地元の開業医を紹介しても、受け入れがよくない場合がある。
 ・病院によっては、自費部分が高額になり町民からは「高い」というイメージがある。

③早期発見・早期受診
 二次予防対象者のうち、教室に参加する人は事業所側が変化を発見し、受診につながりやすい。二次予防教室に参加したくない人へのアプローチを考えていく必要がある。



4. 大口町の施設入所の現状

・老人保健施設は本来在宅に向けたリハビリ施設という位置づけであるが、現状は特養の入所待ちという役割である。

・グループホームは、入居が長期化するため、要介護度が上がっている。認知症の方は、要介護1でも在宅生活が難しく入所している傾向がある。

・入所理由で最も多いのは介護疲れ(介護者が仕事を持っている場合を含む)。特に認知症の方は同居世帯であっても昼間独居になると在宅が難しい傾向がある。

・老健、グループホームとも同居世帯が多いが、在宅ではなく入所している。

・特養は、定員80名中、約半数が大口町民だと聞いている。

3. 在宅介護の困難要因把握調査結果(施設入所者 特養(69名) 老人保健施設(37名) グループホーム(15名)の施設入所する前の状況や家族、入所理由等を調査)

・多世代同居世帯が多いが、介護者が仕事を持っているため施設入所を希望される傾向がある。
 ・所得の高い人は町内の有料老人ホームに入所、または経済的に家族が補てんし、在宅介護を行っている。要介護度4~5の方で医療ニーズが低い方は在宅で過ごしている。
 ・施設入所の限界が要介護1~2と低い。ベッド数も多く、町民に在宅という選択肢がないのかもしれない。
 ・入所の理由は「介護疲れ」が最も多いが、一人暮らしが次に多い。
 ・身体の自立度が高く、認知症が中等度以上の方はグループホームに入所する傾向がある。

5. 町の医療・介護の将来推計

・人口は微増傾向にあり、人口減少に向かうのは2030年以降。2040年には、現在の団塊ジュニア世代が65歳に達し、後期高齢者が増加する。
 ・高齢者の増加に伴って、入院を必要とする患者数が増加していく。外来患者の伸び率は緩やかに増加していく
 ・医療機関の特徴として、尾張北部圏域では内科系診療所が少ない。入院病床は、人口10万人当たり換算すると一般病床数は約2倍、療養病床数は約4倍の病床数がある。

・入所施設の定員数は、尾張北部圏域の平均の約2倍である。
 ・2020年の介護需要は2010年の1.5倍である。

6. 大口町の将来像 ~誰に、どうなってほしいか~

対象	背景と 2025年の姿
高齢者(65歳以上)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の単身世帯、高齢者世帯の増加→高齢になっても元気で暮らせる、地域で見守ってもらえる体制ができている 認知症や介護が必要になり、少し弱ったときに(地域性はあるが)近所づきあい、同級生の関わりなど地域で見守ってもらえる地域づくりができている 要介護1~2の方が地域で暮らせるために、「世話され上手な高齢者」になる 町民が受療知識をもっている
子ども世代(40~64歳)	<ul style="list-style-type: none"> 自分が医療や介護が必要になったときのイメージをもち、自分のことは自分でできるような意思と心構え(貯えも子どももない)をもっている 親の介護・医療を支える知識を得られている 独身者が多く、相談する相手がない。地域で見守ってもらえる体制がない→専門職につながっている(周知(住民啓発・企業への情報発信))
医療・介護専門職	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の相談窓口体制整備(行政、包括、薬局など)できている。町民への啓発を続けている
大口町	<ul style="list-style-type: none"> 企業と協力し、勤労世代にも相談窓口を普及している 在勤者を対象とした住まいの確保、保育園の整備など、若い世代が暮らしやすいまちづくりをしている 空き家への対応



7. 大口町の目指す姿(ビジョン) Key words: 世話され上手な高齢者 地域の関係づくり 団塊ジュニアの意思と心構え 本人の希望に沿った選択 未来ノート

未来ノート

7. 大口町の目指す姿(ビジョン) Key words: 世話され上手な高齢者 地域の関係づくり 団塊ジュニアの意思と心構え 本人の希望に沿った選択 未来ノート どうしてりやーす おたがいさま／ありがとう

みんなが主役！ ふつうに暮らし続けられる しあわせな地域(まち) 大口 (案)

8. 大口町の将来像と行動目標

対象	2025年のめざす姿	本人	地域	専門職・機関	町
高齢者 (65歳以上)	・認知症の単身世帯、高齢者世帯の増加→高齢になっても元気で暮らせる、地域で見守ってもらえる体制	・元気なうちから自分が見守る ・「どうしてりやーす？」と声を掛け合う	・周りの人をちょっと気にかけて、気になる人がいたら、地域包括につなぐ	・NPOまちネットの啓発 ・地域包括が住民へ啓発	・地域包括ケアシステムの啓発(全世代、町全体に) ・地域包括支援センターの啓発
	・認知症や介護が必要になる、少し弱る前に(地域性はあるが)近所づきあい、同級生の関わりなど地域で見守ってもらえる地域づくり	・元気なうちからでかけていく ・近所づきあい、あいさつしていく	・出かける場(喫茶店、サロン、グラウンドゴルフ、文化協会、講座など)の充実と、情報が住民に届く、誘い合う	・地域包括支援センターが喫茶店など出かける場の情報を伝えてつなげる。 ・社協がサロンなど出かける場の充実をはかる	・高齢者の暮らしに関わる課を超えた全庁的な情報発信 ・見守り協定の活用
	・要介護1~2の方が地域で暮らせるために、「世話され上手な高齢者」になる	・感謝の気持ちを言葉で伝える ・SOSを発信する	・みんなでSOSのキャッチ&パス	・包括が住民のSOSをキャッチして、必要なところにつなぐ。 ・情報が入り、ネットワークのパスができる(住民から、ケアマネから)	・住民の課題を政策につなげる ・住民啓発
	・地元のかかりつけ医をもつ	・上手な受診の方法を学ぶ		・医師会がかかりつけ医機能強化 ・受診の方法を学ぶ研修会を行う(まずはケアマネ等、いずれ住民へ)	・受療知識の普及・啓発を行う
子ども世代 (40~64歳)	・自分が医療や介護が必要になったときのイメージをもち、自分のことは自分でできるような意思と心構え	・医療や介護が必要になった時のイメージをもち、学ぶ ・事前の意思表示をしておく		・薬局によるセルフ・メディケーションへの支援	・大口の将来像の発信や講演会を実施、地域包括ケアシステムの周知
	・介護離職をせず介護、育児、仕事の継続	・親の介護・医療を支える知識を得て、活用する	・介護、育児のサポート体制	・NPO、子育て支援団体など既存の団体が活発になる ・包括が企業に出向いて相談にのる体制を作る	・企業と協力し、勤労世帯にも相談窓口を普及していく
	・親の介護や自分のことで相談できる相手が身近にいる	・情報をキャッチする ・SOSを発信する	・地域の活動に誘い、多世代で交流する機会を増やす	・メール等で相談を受けやすい体制づくり	・相談窓口の周知
医療・介護専門職	・専門職の相談窓口体制整備			・専門職の部会で検討	・部会の運営・支援
大口町	・若い世代が暮らしやすいまちにする				・住まいの確保、保育園の整備など、課を超えた全庁的な働きかけ
	・空き家の活用		・空き家情報の発信	・活動への協力	・情報集約と活用方法の検討

9. 大口町地域包括ケア会議組織体制

高齢者サービス調整会議(地域包括支援センター等運営協議会)

(仮)地域包括ケアシステム推進協議会

(仮)高齢者部会	
目標 各部会の中で、長期目標・短期目標を協議する	
委員	
・介護者代表	・NPOまちネット
・民生委員	・高齢者福祉協力員
・地域自治組織	・老人クラブ(いこいの四季)
・コミュニティーワークセンター	・ボランティア/サロン代表
事務局	
・健康生きがい課	・地域包括支援センター
・地域振興課	・大口町社会福祉協議会

(仮)次世代部会	
目標	
委員	
・NPOまちネット	・子どもと文化の森
・町内の企業(産業保健師?)	・子育て支援団体(マミーポケット等)
・家族の会	
・健康推進員	
事務局	
・健康生きがい課	・地域包括支援センター
・地域振興課	・福祉子ども課
・大口町社会福祉協議会	

(仮)医療・介護専門職部会	
目標	
委員	
・尾北医師会	・尾北歯科医師会
・尾北薬剤師会	・ケアマネジャー連絡会
・介護サービス事業者連絡会	・訪問看護ST(あすかビレッジ)
・介護施設の代表者	・医療SW(さくら総合病)
・江南保健所	・尾北医師会(在サポ)
事務局	
・健康生きがい課	・地域包括支援センター
・大口町社会福祉協議会	

※各部会のなかで生活支援・認知症施策を議題にする



健康生きがい課
94-0051
H29年3月発行

このおたよりでは、大口町在宅医療・介護連携事業の情報をお伝えして行きます。
今回は、2月7日(火)の全体会の様子をお伝えします。

～今回の内容は！～

- ・「地域包括ケアの体制づくり」
～医療・介護の専門職の役割～
講師：国立長寿医療研究センター
在宅連携医療部 三浦久幸氏
- ・「大口町の地域包括ケア・組織体制について」
- ・グループワーク
 - ①認知症の方の受療行動
 - ②施設入所を選択する限界



今回の全体会は、67名の方が出席していただきました。

27年度からの取り組みの課題を踏まえ、28年度の大口町の地域包括ケアシステムの構築に向けての経過を報告し、その中で検討した大口町のビジョン（案）

「みんなが主役！ふつうに暮らし続けられる しあわせな地域（まち）大口」と
2025年に向けての大口町の将来像と行動目標を対象別に部会（高齢者部会・次世代部会・医療介護専門職部会）を設けて検討していく組織体制について、参加者の皆さんの合意をいただきました。

これを基に、29年度は、医療・介護専門職部会等で皆さんにもご協力をいただくことでご了解をいただきました。グループワークでは、大口町の現状について、それぞれの職種の立場から、

①自分は何ができるのか ②連携でできることは？ ③連携って？ について、熱心に討議していただきました。（内容については、グループワークのまとめを参照ください。）

皆さんが、改めて自分の役割に気づいたり、多職種の役割を知り、また連携の必要性をより一層感じ、動き出していきたいという思いもアンケートから読み取れ、とても心強く感じています！

まずは、ご自身が取り組めることからやってみてください！

29年度もよろしく申し上げます。

昨年からの顔の見える関係の全体会から1年が経ちましたが、皆さんが少しずつお近づきになれ、お互いの役割もわかってきたようで、いよいよ「チーム大口」として動き出せそうな兆しを感じています。

保健活動のまとめ

平成29年6月作成

編 集 大 口 町 健 康 福 祉 部 健 康 生 き が い 課
(大 口 町 保 健 セ ン タ ー)
丹 羽 郡 大 口 町 伝 右 一 丁 目 35 番 地
電 話 0587 (94) 0051
F A X 0587 (94) 0052

発 行 大 口 町

健康おおぐち21 シンボルマーク



ハッピー・スマッピー